

II. 施設・事業所アンケート 調査結果

II. 施設・事業所アンケート 調査結果

1. 施設・事業所の属性

(1) 所在地

「東京都」6.9%が最も多く、次いで「広島県」6.7%、「愛知県」6.2%であった。

貴施設・事業所の所在地をお答えください。(1つだけ選択)

図表 1 所在地

	n	%		n	%		n	%
北海道	34	3.4	石川県	5	0.5	岡山県	12	1.2
青森県	3	0.3	福井県	8	0.8	広島県	66	6.7
岩手県	7	0.7	山梨県	6	0.6	山口県	13	1.3
宮城県	10	1.0	長野県	30	3.0	徳島県	13	1.3
秋田県	7	0.7	岐阜県	27	2.7	香川県	6	0.6
山形県	6	0.6	静岡県	21	2.1	愛媛県	46	4.7
福島県	9	0.9	愛知県	61	6.2	高知県	6	0.6
茨城県	24	2.4	三重県	33	3.3	福岡県	48	4.9
栃木県	17	1.7	滋賀県	14	1.4	佐賀県	3	0.3
群馬県	24	2.4	京都府	17	1.7	長崎県	15	1.5
埼玉県	29	2.9	大阪府	56	5.7	熊本県	19	1.9
千葉県	41	4.1	兵庫県	47	4.8	大分県	16	1.6
東京都	68	6.9	奈良県	6	0.6	宮崎県	3	0.3
神奈川県	55	5.6	和歌山県	14	1.4	鹿児島県	16	1.6
新潟県	13	1.3	鳥取県	1	0.1	沖縄県	6	0.6
富山県	7	0.7	島根県	1	0.1			
計						989	100.0	

(2) 法人種別

「社会福祉法人（社協以外）」49.2%が最も多く、次いで「営利法人」25.0%、「医療法人」20.1%であった。

貴施設・事業所の法人種別をお答えください。(1つだけ選択)

図表 2 法人種別

	n	%
社会福祉法人（社協以外）	487	49.2
営利法人	247	25.0
医療法人	199	20.1
社会福祉法人（社協）	32	3.2
特定非営利法人	11	1.1
生協	4	0.4
社団・財団	3	0.3
農協	1	0.1
地方公共団体	0	0.0
その他	5	0.5
計	989	100.0

(3) サービス種別

「介護老人福祉施設」38.1%が最も多く、次いで「認知症対応型共同生活介護」13.1%、「介護老人保健施設」9.6%であった。

貴施設・事業所の主なサービス種別をお答えください。(1つだけ選択)

図表 3 サービス種別

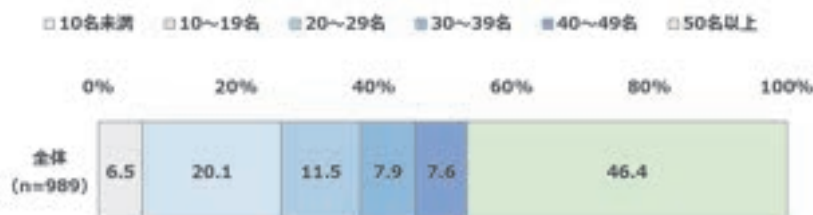
	n	%
介護老人福祉施設	377	38.1
認知症対応型共同生活介護	130	13.1
介護老人保健施設	95	9.6
病院・診療所	89	9.0
通所介護	88	8.9
特定施設入居者生活介護	83	8.4
小規模多機能型居宅介護	42	4.2
障がい者支援法・生活保護法関係	41	4.1
短期入所生活介護	31	3.1
老人福祉法・介護保険法関係のその他施設	13	1.3
その他	0	0.0
計	989	100.0

(4) 日本人従業員数

「50名以上」46.4%が最も多く、次いで「10～19名」20.1%、「20～29名」11.5%であった。

2022年10月1日時点における、貴施設・事業所の日本人従業員数をお答えください。外国人介護人材は含めずにお答えください。※職種、雇用形態は問いません。(1つだけ選択)

図表 4 日本人従業員数

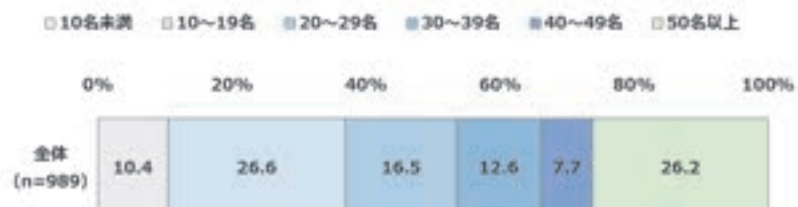


(5) 日本人介護職員数

「10～19名」26.6%が最も多く、次いで「50名以上」26.2%、「20～29名」16.5%であった。

2022年10月1日時点における、貴施設・事業所の日本人介護職員数をお答えください。外国人介護人材は含めずにお答えください。※雇用形態は問いません。(1つだけ選択)

図表 5 日本人介護職員数



2. 外国人介護人材の受け入れ状況

(1) 外国人介護人材の人数（受け入れ制度別）

受け入れ制度別の外国人介護人材の人数は以下のとおりである。技能実習生の人数を平均値で見ると1施設・事業所あたり3.02人であり、他の受け入れ制度よりも多い。割合で見ると「1名」が20.3%、「2名」が32.6%であり、合わせると5割を超える。

2022年10月1日時点における、貴施設・事業所の外国人介護人材の人数を受け入れ制度別にお答えください。（数字を半角で入力）

図表 6 外国人介護人材の人数（受け入れ制度別）

(上段：実数、下段：割合)

受け入れ制度別	全体	0名	1名	2名	3名	4名	5名	6~10名	11名以上	無回答 不明	平均値
EPA（経済連携協定）に基づく 外国人介護福祉士候補者 外国人介護福祉士	989	914	23	14	15	6	4	10	3	0	0.26
	100%	92.4%	2.3%	1.4%	1.5%	0.6%	0.4%	1.0%	0.3%	0.0%	
在留資格「介護」を持つ外国人	989	837	69	33	12	17	7	12	2	0	0.39
	100%	84.6%	7.0%	3.3%	1.2%	1.7%	0.7%	1.2%	0.2%	0.0%	
技能実習制度を活用した外国人 (技能実習生)	989	0	201	322	155	154	57	87	13	0	3.02
	100%	0.0%	20.3%	32.6%	15.7%	15.6%	5.8%	8.8%	1.3%	0.0%	
在留資格「特定技能1号」を持つ外国人	989	684	123	85	37	19	14	26	1	0	0.74
	100%	69.2%	12.4%	8.6%	3.7%	1.9%	1.4%	2.6%	0.1%	0.0%	
その他	989	803	89	37	23	12	7	10	8	0	0.54
	100%	81.2%	9.0%	3.7%	2.3%	1.2%	0.7%	1.0%	0.8%	0.0%	

(2) 技能実習生の人数（母国別、日本語能力別、在留資格別）

母国別、日本語能力別、在留資格別の技能実習生の人数は次のとおりである。

図表 7 技能実習生の人数（母国別、日本語能力別、在留資格別）

(上段：実数、下段：割合)

母国別	全体	0名	1名	2名	3名	4名	5名	6～10名	11名以上	無回答 不明	平均値
ベトナム	989	520	98	135	68	51	22	36	6	53	1.29
	100%	52.6%	9.9%	13.7%	6.9%	5.2%	2.2%	3.6%	0.6%	5.4%	
インドネシア	989	623	44	91	35	56	10	30	3	97	0.97
	100%	63.0%	4.4%	9.2%	3.5%	5.7%	1.0%	3.0%	0.3%	9.8%	
ミャンマー	989	692	32	50	23	37	19	18	1	117	0.66
	100%	70.0%	3.2%	5.1%	2.3%	3.7%	1.9%	1.8%	0.1%	11.8%	
中国	989	789	32	19	11	11	2	0	3	122	0.24
	100%	79.8%	3.2%	1.9%	1.1%	1.1%	0.2%	0.0%	0.3%	12.3%	
フィリピン	989	772	22	28	18	18	8	5	1	117	0.34
	100%	78.1%	2.2%	2.8%	1.8%	1.8%	0.8%	0.5%	0.1%	11.8%	
モンゴル	989	821	8	11	4	2	5	4	0	134	0.12
	100%	83.0%	0.8%	1.1%	0.4%	0.2%	0.5%	0.4%	0.0%	13.5%	
タイ	989	839	4	3	4	2	1	0	0	136	0.04
	100%	84.8%	0.4%	0.3%	0.4%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	13.8%	
スリランカ	989	838	3	4	6	1	0	3	0	134	0.06
	100%	84.7%	0.3%	0.4%	0.6%	0.1%	0.0%	0.3%	0.0%	13.5%	
カンボジア	989	831	7	12	5	1	2	1	0	130	0.08
	100%	84.0%	0.7%	1.2%	0.5%	0.1%	0.2%	0.1%	0.0%	13.1%	
その他の国	989	818	18	15	5	2	2	3	0	126	0.12
	100%	82.7%	1.8%	1.5%	0.5%	0.2%	0.2%	0.3%	0.0%	12.7%	

(上段：実数、下段：割合)

日本語能力別	全体	0名	1名	2名	3名	4名	5名	6～10名	11名以上	無回答 不明	平均値
N4	989	436	213	162	65	27	11	16	1	58	1.09
	100%	44.1%	21.5%	16.4%	6.6%	2.7%	1.1%	1.6%	0.1%	5.9%	
N3	989	202	287	243	101	49	26	36	5	40	1.81
	100%	20.4%	29.0%	24.6%	10.2%	5.0%	2.6%	3.6%	0.5%	4.0%	
N2	989	623	199	66	19	6	0	2	0	74	0.47
	100%	63.0%	20.1%	6.7%	1.9%	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%	7.5%	
N1	989	831	34	6	0	0	1	0	0	117	0.06
	100%	84.0%	3.4%	0.6%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	11.8%	

(上段：実数、下段：割合)

在留資格別	全体	0名	1名	2名	3名	4名	5名	6～10名	11名以上	無回答 不明	平均値
技能実習1号	989	396	175	235	86	42	15	18	2	20	1.33
	100%	40.0%	17.7%	23.8%	8.7%	4.2%	1.5%	1.8%	0.2%	2.0%	
技能実習2号	989	306	173	285	94	67	20	15	0	29	1.56
	100%	30.9%	17.5%	28.8%	9.5%	6.8%	2.0%	1.5%	0.0%	2.9%	
技能実習3号	989	872	24	40	11	3	4	2	0	33	0.19
	100%	88.2%	2.4%	4.0%	1.1%	0.3%	0.4%	0.2%	0.0%	3.3%	

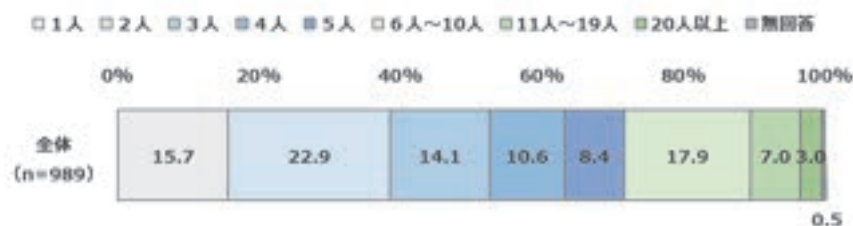
3. 技能実習生に対するOJTに関する体制

(1) 技能実習指導員の人数

「2人」22.9%が最も多く、次いで「6人～10人」17.9%、「1人」15.7%であった。3人以下の割合を合算すると52.6%であり、過半数を超える。

技能実習生のOJTに関わっている、技能実習指導員の人数をお答えください。(数字を半角で入力)

図表 8 技能実習指導員の人数



(2) 主たる技能実習指導員の立場・職位

「主任、介護部門の長」53.0%が最も多く、次いで「ユニットリーダー、サブリーダー」20.5%、「施設長、管理者」18.9%であった。

技能実習指導員のうち、中心的な役割を担っている方を一人想起してください。この設問以降、その方を「主な指導員」と略します。主な指導員の方の立場・職位として、最も近いものをお答えください。
※あなた自身が「主な指導員」に相当する場合、あなた自身のことをお答えください。(1つだけ選択)

図表 9 主たる技能実習指導員の立場・職位

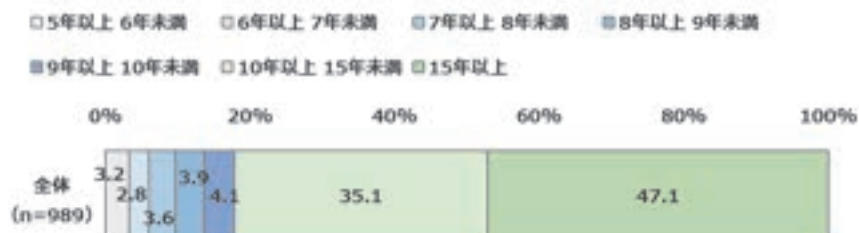
	n	%
主任、介護部門の長	524	53.0
ユニットリーダー、サブリーダー（チームのまとめ役）	203	20.5
施設長、管理者	187	18.9
一般スタッフ（特に立場、役職には就いていない）	56	5.7
その他	19	1.9
計	989	100.0

(3) 主たる技能実習指導員が有する介護業務経験年数

「15年以上」が最も多く、5割弱（47.1%）となっている。次いで「10年以上 15年未満」35.1%であった。10年以上の割合を合算すると8割を超える（82.2%）。

主な指導員の方が有する介護業務経験年数をお答えください。※自施設での介護業務経験年数に限定せず、他の施設・事業所での経験があれば、通算した上でご回答ください。

図表 10 主たる技能実習指導員が有する介護業務経験年数



(4) 主たる技能実習指導員が有する資格・受講した講習等

「介護の技能実習指導員講習会」33.9%が最も多く、次いで「介護支援専門員(ケアマネジャー)」26.1%、「介護福祉士実習指導者講習 修了」19.2%であった。

介護技能の指導にあたって、主な指導員の方が有する「介護福祉士」以外の資格、または受講した講習等をお答えください。(あてはまるものをすべて選択)

図表 11 主たる技能実習指導員が有する資格・受講した講習等

	n	%
介護の技能実習指導員講習会	335	33.9
介護支援専門員(ケアマネジャー)	258	26.1
介護福祉士実習指導者講習 修了	190	19.2
介護福祉士実務者研修 修了	140	14.2
介護プロフェッショナルキャリア段位制度のアセッサー講習 修了	130	13.1
看護師・准看護師	115	11.6
認定介護福祉士	51	5.2
実務者研修教員講習 修了	48	4.9
外国人技能実習制度の試験評価者	35	3.5
介護福祉士養成施設等における介護領域科目の教授や指導の経験	22	2.2
介護プロフェッショナルキャリア段位制度のレベル認定取得	21	2.1
その他	74	7.5
介護福祉士以外の資格は持っていない	219	22.1
計	989	100.0

下記の5つの講習等を「指導力向上に関連する講習等」と位置づけ、いずれかの講習を1つ以上受講したと回答している件数をカウントしたところ、479件（48.4%）であった。

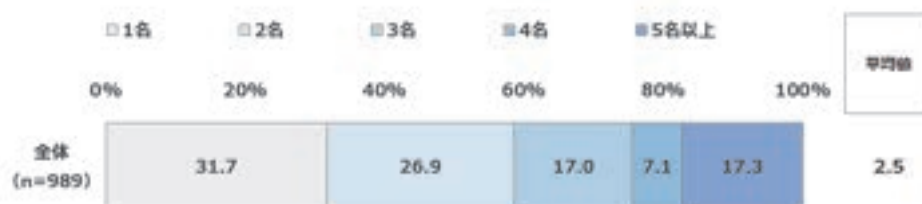
指導力向上に関連する講習等	
●介護の技能実習指導員講習会	●介護福祉士実習指導者講習
●介護プロフェッショナルキャリア段位制度のアセッサー講習	●実務者研修教員講習
●介護福祉士養成施設等における介護領域科目の教授や指導の経験	

(5) 技能実習生に対する指導が修了するまでに関与する技能実習指導員の人数

「1名」31.7%が最も多く、次いで「2名」26.9%であった。

1人の技能実習生に対する技術指導が修了するまでに、責任を持って関与する（明確に役割として関わっている）技能実習指導員は、およそ何名ですか。技能実習1号、2号の修了ではなく技能実習全体が修了するまで、という想定でお答えください。

図表 12 技能実習生に対する指導が修了するまでに関与する技能実習指導員の人数



(6) 複数の技能実習指導員が指導に関与する場合の役割分担

技能実習生への指導が修了するまでに技能実習指導員が2名以上関与する施設・事業所に対して、その役割分担を尋ねたところ、「配属部署ごとに分担」が最も多く45.9%、次いで「教える介護技術領域ごとに、担当指導員が分かっている」14.5%、「期間による分担」9.3%であった。「特に役割分担はしていない」は32.7%であった。

「技能実習生1人に対して、複数の技能実習指導員が指導に関与している」と回答した方にお聞きます。複数の指導員は、それぞれどのように役割分担をしていますか。（あてはまるものをすべて選択）

図表 13 複数の技能実習指導員が指導に関与する場合の役割分担

(技能実習生への指導が修了するまでに技能実習指導員が2名以上関与する場合のみ回答)

	n	%
配属部署ごとに分担	310	45.9
教える介護技術領域ごとに、担当指導員が分かっている	98	14.5
期間による分担（技術実習が一定期間経過すると、担当指導員が交代する等）	63	9.3
その他	56	8.3
特に役割分担はしていない	221	32.7
計	675	100.0

4. 技能実習生に対する OJT の計画

(1) 実習実施予定表の作成方針

「定型化（標準化）された実習実施予定表があり、それを採用している」66.6%と最も多い。続く「定型化（標準化）された実習実施予定表があり、それを技能実習生ごとに一部修正している」21.1%と合わせると、9割弱の施設・事業所において、定型化（標準化）された実習実施予定表を採用していることがうかがえる。

技能実習計画における「実習実施予定表」についてお聞きします。実習実施予定表の作成方針として、貴施設・事業所の状況に最も近いものをお答えください。（1つだけ選択）

図表 14 実習実施予定表の作成方針

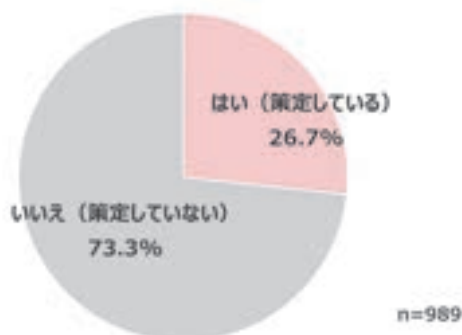


(2) 実習実施予定表をさらに詳細化した計画の策定状況

実習実施予定表をさらに詳細化した計画を策定している施設・事業所は26.7%であった。

着任時に定めた技能実習計画における「実習実施予定表」をさらに詳細化した計画を策定していますか。（1つだけ選択）

図表 15 実習実施予定表をさらに詳細化した計画の策定状況



(3) 詳細計画で用いられている時間単位

実習実施予定表をさらに詳細化した計画を策定している施設・事業所に対して、その計画で用いられている時間単位を尋ねたところ、「月単位」が最も多く 55.7%、次いで「日単位」25.0%、「週単位」11.4%であった。

詳細計画はどのような単位で作成されていますか。(1つだけ選択)



5. 技能実習生に対するOJTの実施

(1) OJTで活用している教材等

「施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料」が最も多く37.6%、次いで「介護職種の技能実習生の受入れに関するガイドライン」30.2%、「市販の書籍物」17.6%であった。

技能実習生に対するOJTで活用している教材、資料等をお答えください。
※技能実習生が活用している教材等という意味ではなく、指導する側が指導で活用している教材等という視点で回答ください。(あてはまるものをすべて選択)

図表 17 OJTで活用している教材等

	n	%
施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料	372	37.6
介護職種の技能実習生の受入れに関するガイドライン	299	30.2
市販の書籍物	174	17.6
各種団体、振興会等が公開している資料	112	11.3
eラーニングでの講座	91	9.2
「介護キャリア段位制度」の評価基準・項目	69	7.0
行政が公開している資料	25	2.5
その他	56	5.7
特に教材、資料等は活用していない	226	22.9
計	989	100.0

「OJT で活用している教材」について、具体的な教材名等を自由回答形式で回答を求めた。下記に一部抜粋を示す。

【施設・事業所内で作成したテキスト・資料】

- ・ 業務マニュアル／介護マニュアル／事業所マニュアル
- ・ 新人教育・新人研修マニュアル
- ・ OJT チェックシート／業務チェックシート

【市販の書籍物】

- ・ 外国人技能実習生のためのよくわかる介護の知識と技術
- ・ 外国人のためのやさしく学べる介護の知識・技術
- ・ 介護の日本語
- ・ 介護導入講習テキスト

【各種団体、振興会等が公開している資料】

- ・ 介護の特定技能評価試験学習テキスト
- ・ 外国人技能実習制度の手引き

【e ラーニングでの講座】

- ・ 認知症介護基礎研修
- ・ ジョブメドレーアカデミー

【行政が公開している資料】

- ・ 介護基礎ハンドブック等
- ・ 外国人技能実習機構資料

【その他】

- ・ 日本語ドリルや介護評価試験用問題集
- ・ YouTube 動画

(2) 技能実習生に活用を指示している（推奨している）教材等

「施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料」が最も多く 28.9%、次いで「市販の書籍物」14.9%、「各種団体、振興会等が公開している資料」11.9%であった。「特に教材、資料等は活用していない」は 43.5%であった。

技能実習生に活用を指示している（あるいは推奨している）教材、資料等をお答えください。
(あてはまるものをすべて選択)

図表 18 技能実習生に活用を指示している（推奨している）教材等

	n	%
施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料	286	28.9
市販の書籍物	147	14.9
各種団体、振興会等が公開している資料	118	11.9
eラーニングでの講座	97	9.8
行政が公開している資料	16	1.6
その他	69	7.0
特に教材、資料等は活用していない	430	43.5
計	989	100.0

「技能実習生に活用を指示している（推奨している）教材等」について、具体的な教材名等を自由回答形式で回答を求めた。下記に一部抜粋を示す。

【施設・事業所内で作成したテキスト・資料】

- ・ マニュアル／介護マニュアル／業務マニュアル
- ・ 施設マニュアル／事業所マニュアル
- ・ 介護用語

【市販の書籍物】

- ・ 外国人技能実習生のためのよくわかる介護の知識と技術
- ・ 介護の日本語
- ・ 介護導入講習テキスト

【各種団体、振興会等が公開している資料】

- ・ 介護の特定技能評価試験学習テキスト
- ・ 学んでみよう日本の介護

【eラーニングでの講座】

- ・ ジョブメドレーアカデミー介護
- ・ 認知症介護基礎研修
- ・ 学研ナーシング

【行政が公開している資料】

- ・ 日本介護福祉士会 介護職種の技能実習指導員講習テキスト
- ・ 介護基礎技術ハンドブック

【その他】

- ・ 介護施設協同組合からのテキスト
- ・ 認知症サポーター、認知症基礎研修

(3) 技能実習生に対するOJTに関して工夫・重視していること

「日本語をできるだけゆっくり正確に話すようにしている」が最も多く 95.1%、次いで「できるだけ介護場面に立ち会うようにしている」78.4%、「教える人によって教え方がばらつかないように、教える側同士で教え方のすり合わせをしている」58.8%であった。

技能実習生に対するOJTに関して、工夫・重視していることをお答えください。
(あてはまるものをすべて選択)

図表 19 技能実習生に対するOJTに関して工夫・重視していること

	n	%
日本語をできるだけゆっくり正確に話すようにしている	941	95.1
できるだけ介護場面に立ち会うようにしている	775	78.4
教える人によって教え方がばらつかないように、教える側同士で教え方のすり合わせをしている	582	58.8
現場で相談できるよう、ベテラン職員等の経験年数のある介護職員とチームを組むようにしている	544	55.0
指導で用いる用語・言葉が教える人や場面によってばらつかないように、事前に用語・言葉の使い方を揃えている	274	27.7
相談しやすいように、メンター職員を配置している	255	25.8
個別に進捗状況について、チェックリストを用いてPDCAを確認している	226	22.9
学習しやすいよう、施設・事業所内に勉強室（学習スペース）を設けている	209	21.1
教材等を用いて、伝えるようにしている	191	19.3
相手の文化、習慣を理解するために、相手国の言葉を少し覚えて話すようにしている	171	17.3
現場で相談できるよう、新人職員等の経験年数の浅い介護職員とチームを組むようにしている	92	9.3
あてはまるものはない	3	0.3
計	989	100.0

(4) 技能実習生に対するOJTに関して工夫・重視していること（自由回答）

「技能実習生に対するOJTに関して工夫・重視していること」について、自由回答形式で回答を求めた。下記に一部抜粋を示す。

- ・ 定期的に個人面談を実施し、困りごとや意見等を把握するようにしている。
- ・ 日本語の言葉の使い方や文章を書く練習として、交換ノートを実施している。
- ・ 書く日本語力アップのために、業務日誌を書いてもらっている。その日やったことを簡潔に書き、思ったことや分からなかったことを書いてもらい、それに対して指導員が回答する。
- ・ 最初の1か月は、集団で研修を行い基本的な介護技術や報告、連絡、相談の方法などを座学、実技を交えて研修を行った。その研修を経た後、現場にばらけ、各フロアでのOJTを開始した。現場のOJTの前の事前研修が重要だと思う。
- ・ 介護に関する話、指導だけでなく、プライベート（自国の話、普段の生活など）の会話をしたり、楽しく業務に従事できる環境を整える努力をしている。
- ・ 利用者様とのコミュニケーションを積極的にいただき、日本語や方言を習得している。また、文化の違いもあるため施設で相談できる担当者を決めている。
- ・ 2人目の技能実習生に関しては、毎日ミーティングの時間を設けて1人目の技能実習生に参加してもらい、母国語を使用して理解度を確認してもらっている。
- ・ 地域交流や外国人同士の交流ができる国際交流センター・キリスト教会等の紹介
- ・ 本人に責任をもって仕事をして頂くための委員会の参加や役割の提供

(5) 技能実習生へのOJTに関する課題：技能実習生にまつわる課題

「言葉の問題でコミュニケーションが円滑にとれず、介護技術の習得にマイナスの影響が出ている」が最も多く 35.3%、次いで「(省略) 日本の介護の現場で求められる「安全」や「衛生」の理解が難しい」26.6%、「自立支援」についての理解が難しい」25.1%であった。「技能実習生に関連する課題はない」は24.8%であった。

技能実習生に対するOJTに関して、課題に感じていることをお答えください。(技能実習生について)
(あてはまるものをすべて選択)

図表 20 技能実習生へのOJTに関する課題：技能実習生にまつわる課題

	n	%
言葉の問題でコミュニケーションが円滑にとれず、介護技術の習得にマイナスの影響が出ている	349	35.3
技能実習生は、出身国によっては「安全」や「衛生」について文化的に異なる考え方を持っているため、日本の介護の現場で求められる「安全」や「衛生」の理解が難しい	263	26.6
「自立支援」についての理解が難しい	248	25.1
技能実習生の間で心理的・感情的な衝突がある	124	12.5
技能実習生が日本人職員と心理的な距離を取っている（壁を作っている）	95	9.6
技能実習生がミスを起こしてしまった際に、速やかに報告することをためらう傾向がある	94	9.5
生活全般に関する課題が多く、介護技術の習得にマイナスの影響が出ている	53	5.4
その他	125	12.6
技能実習生に関連する課題はない	245	24.8
計	989	100.0

「その他」の自由回答欄に記入された回答について、下記に一部抜粋を示す。

- ・ 「大丈夫。分かった」等の言葉が出るが分かっていないことが多いので気をつけている。
- ・ 遠慮してなかなか本音は言わない、日本語の細かいニュアンスが伝わらない。
- ・ 「わかりません」や「できません」など一般的にはネガティブに捉えられる言葉を使うことに躊躇いがみられる。
- ・ コミュニケーションが取れないわけではないが、理解度をくみ取るのが難しい。
- ・ 相談はできているが意見は言えていない（言えない）ことがある。
- ・ 慣れのためか、指導した内容と違う内容で業務にあたることもある。
- ・ 慣れてくると、途中でだらけてくる。ミスが増える傾向がある。
- ・ 専門用語が伝わりづらい。介護の根拠、ケアの根拠を伝えるのが難しく、何故この介護をしているかを理解してもらうことが困難。日本語は上手になってきたが、指示した内容と異なる受け止めをすることがあり、お互いにしっかりと確認していく必要がある。

(6) 技能実習生へのOJTに関する課題：指導者にまつわる課題

「通常業務が忙しく、技術指導のための時間を十分確保できない」が最も多く55.0%、次いで「指導する職員によって、同じケアであっても指導方法が異なる」38.5%、「施設・事業所全体として、指導スキルを有する職員が不足している」28.2%であった。「指導者に関連する課題はない」は12.5%であった。

技能実習生に対するOJTに関して、課題に感じていることをお答えください。(指導者について)
(あてはまるものをすべて選択)

図表 21 技能実習生へのOJTに関する課題：指導者にまつわる課題

	n	%
通常業務が忙しく、技術指導のための時間を十分確保できない	544	55.0
指導する職員によって、同じケアであっても指導方法が異なる	381	38.5
施設・事業所全体として、指導スキルを有する職員が不足している	279	28.2
技能実習生にとってわかりやすい日本語を適切に使うスキルが不足している	270	27.3
技能実習生の資質や能力の差に合わせた柔軟な指導ができない	189	19.1
指導に役立つ教材がわからない	142	14.4
指導方法について確信が持てないまま、手探りで指導している	139	14.1
指導に関わる職員がチーム意識をもって指導にあたれていない	89	9.0
その他	23	2.3
指導者に関連する課題はない	124	12.5
計	989	100.0

「その他」の自由回答欄に記入された回答について、下記に一部抜粋を示す。

- ・ 実習生の感覚を理解しようとする余裕がない。
- ・ コロナ禍で積極的なコミュニケーションが取りづらい環境。
- ・ 日本語で方言が出てくる。
- ・ 言葉の理解で誤解を生む。
- ・ 毎日のことで指導者としての認識が薄れる。
- ・ 初めての外国人技能実習生の受け入れで言葉の違いや文化の違いで戸惑うときがある。
- ・ 実習生の習熟度に合わせた指導が難しい。
- ・ 私生活の関与をどこまでするのか。

(7) 業務別の「指導員の技術指導のもと技能実習生に業務をさせてみる」時期

介護技術に関する指導を、以下の2つのSTEPに大別した。

Step1 技能実習生のそばで指導員が説明・指示だしを行いながら、
技能実習生に業務推進させてみる

Step2 ある程度1人で業務推進できるようになった技能実習生を指導員が見守る

その上で、技能実習生が着任した後、STEP1が開始される時期を質問した。その結果を以下に示す。安全衛生業務のうち「雇い入れ時の安全衛生教育」や、関連業務の「掃除、洗濯、調理業務」の開始時期が早い一方で、関連業務の「記録・申し送り」の開始時期が遅い傾向が示唆された。なお、1割弱の施設・事業所では、1年目の実習では「記録・申し送り(10.4%)」といった関連業務の他、掲示物管理(13.9%)、福祉用具の点検・点検管理(7.2%)等の周辺業務に携わっていないとの実態も示された。

技能実習生に対する技術指導は、大きく以下の2つのステップを経ていくと考えられます。
Step1 技能実習生のそばで指導員が説明・指示だしを行いながら、技能実習生に業務推進させてみる
Step2 ある程度1人で業務推進できるようになった技能実習生を指導員が見守る
以下の各業務について、Step1は、着任後どれくらい経ってからでしょうか。
(それぞれについて、1つ選択)

図表 22 業務別の「指導員の技術指導のもと技能実習生に業務をさせてみる」時期

業務		着任後 1ヶ月以内	着任後 1ヶ月～ 3ヶ月目から	着任後 4ヶ月～ 6ヶ月目から	着任後 7ヶ月～ 9ヶ月目から	着任後 10ヶ月～ 12ヶ月目から	2年目以降の 時期から
共通項目	体調の確認等	56.1%	32.6%	7.7%	2.5%	0.5%	0.6%
身づくろいの介護	整容の介助	45.5%	44.4%	7.6%	1.8%	0.4%	0.3%
	衣服着脱の介助	37.3%	46.4%	12.5%	3.1%	0.2%	0.4%
移動の介護	体位変換	30.6%	47.0%	16.8%	4.2%	0.7%	0.6%
	移動の介助	35.5%	44.4%	15.4%	3.4%	1.0%	0.3%
食事の介護	食事の介助	32.8%	43.1%	15.4%	6.2%	1.7%	0.9%
入浴・清潔保持の介護	部分浴の介助	22.5%	45.3%	20.6%	8.2%	2.1%	1.2%
	入浴の介助	19.3%	44.4%	22.9%	9.5%	2.7%	1.2%
	身体拭拭	19.6%	45.2%	22.0%	8.5%	3.0%	1.6%
排泄の介護	トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助	29.0%	48.3%	14.9%	5.5%	2.0%	0.3%
	おむつ交換	31.4%	43.9%	16.9%	5.2%	2.0%	0.6%
	尿器・便器を用いた介助	25.4%	44.6%	17.9%	6.9%	3.0%	2.2%
安全衛生業務	雇い入れ時の安全衛生教育	80.1%	14.1%	3.8%	1.5%	0.1%	0.4%
	介護職種における疾病・腰痛予防	62.3%	26.8%	7.8%	2.1%	0.4%	0.6%
	福祉用具の使用方法・及び点検	49.6%	35.4%	11.0%	2.5%	0.9%	0.5%
	介護事故防止のための教育	54.5%	30.2%	10.0%	3.3%	1.1%	0.5%
	緊急時・事故発生時の対応	44.6%	29.2%	15.4%	5.8%	2.8%	1.7%
関連業務	掃除、洗濯、調理業務	69.2%	23.0%	4.4%	1.2%	0.3%	0.9%
	機能訓練の補助やレクリエーション業務	35.1%	34.1%	18.0%	7.1%	2.5%	3.2%
	記録・申し送り	19.3%	28.5%	25.4%	9.7%	6.7%	10.4%
周辺業務	お知らせなどの掲示物の管理	25.6%	27.2%	19.1%	8.9%	5.4%	13.9%
	車いすや歩行器等福祉用具の点検・管理	27.5%	32.4%	20.9%	8.5%	3.5%	7.2%
	物品の補充や管理	27.5%	32.6%	20.1%	8.5%	3.4%	7.9%

n = 989

(8) 業務別の「ある程度技能習得した技能実習生を指導員が見守る」時期

介護技術に関する指導を、以下の2つのSTEPに大別した。

Step1 技能実習生のそばで指導員が説明・指示だしを行いながら、
技能実習生に業務推進させてみる

Step2 ある程度1人で業務推進できるようになった技能実習生を指導員が見守る

その上で、技能実習生が着任した後、STEP2が開始される時期を質問した。その結果を以下に示す。多くの業務が「着任後1年未満」でSTEP2の状態になることが示されたが、関連業務の「記録・申し送り」や、周辺業務の「お知らせなどの掲示物の管理」が相対的に遅い傾向が示唆された。

技能実習生に対する技術指導は、大きく以下の2つのステップを経ていくと考えられます。

Step1 技能実習生のそばで指導員が説明・指示だしを行いながら、技能実習生に業務推進させてみる

Step2 ある程度1人で業務推進できるようになった技能実習生を指導員が見守る

以下の各業務について、Step2は、着任後どれくらい経ってからでしょうか。

(それぞれについて、1つ選択)

図表 23 業務別の「ある程度技能習得した技能実習生を指導員が見守る」時期

業務		着任後 1年未満	着任後 2年目の 1～3ヶ月から	着任後 2年目の 4～6ヶ月から	着任後 2年目の 7～9ヶ月から	着任後2年目 の10ヶ月～ 12ヶ月から	着任後 3年目以降
共通項目	体調の確認等	68.9%	18.7%	7.9%	3.5%	0.6%	0.4%
身じたくの介護	髪形の介助	70.8%	18.5%	6.8%	3.2%	0.4%	0.3%
	衣服着脱の介助	69.3%	19.1%	7.6%	3.3%	0.5%	0.2%
移動の介護	体位変換	65.3%	20.8%	8.9%	4.0%	0.6%	0.3%
	移動の介助	67.3%	20.2%	7.7%	3.9%	0.6%	0.2%
食事の介護	食事の介助	65.2%	21.7%	7.9%	3.9%	0.6%	0.6%
入浴・清潔保持の介護	部分浴の介助	63.9%	19.8%	10.1%	4.9%	0.9%	0.4%
	入浴の介助	59.9%	21.9%	11.3%	5.3%	1.2%	0.4%
	身体清拭	61.2%	20.9%	11.1%	4.9%	1.3%	0.6%
排泄の介護	トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助	65.9%	19.7%	9.0%	4.4%	0.7%	0.2%
	おむつ交換	65.6%	20.2%	8.9%	4.1%	0.5%	0.6%
	尿器・便器を用いた介助	62.7%	21.1%	9.1%	5.2%	0.8%	1.1%
安全衛生業務	雇い入れ時の安全衛生教育	75.6%	14.4%	5.5%	3.0%	0.7%	0.8%
	介護職種における疾病・腰痛予防	71.6%	16.5%	7.4%	2.8%	1.0%	0.7%
	福祉用具の使用方法及び点検	68.7%	17.8%	8.1%	3.6%	0.9%	0.9%
	介護事故防止のための教育	67.2%	17.7%	8.5%	4.3%	1.2%	1.0%
	緊急時・事故発生時の対応	59.0%	21.1%	9.8%	5.9%	1.8%	2.3%
関連業務	掃除、洗濯、調理業務	70.0%	12.8%	4.3%	2.1%	0.8%	0.9%
	機能訓練の補助やレクリエーション業務	65.2%	20.5%	8.0%	3.6%	1.4%	1.2%
	記録・申し送り	49.7%	25.0%	10.3%	6.6%	3.0%	5.4%
周辺業務	お知らせなどの掲示物の管理	53.5%	24.8%	7.7%	4.0%	2.3%	7.7%
	車いすや歩行器等福祉用具の点検・管理	60.6%	20.7%	8.3%	4.4%	2.1%	3.8%
	物品の補充や管理	60.5%	20.4%	8.7%	4.6%	2.0%	3.8%

n = 989

(9) 業務に従事する日ごとの技術習得に関する振り返りの実施状況

「技能実習生に振り返りの記録を書かせるようにしている」が最も多く 47.9%、次いで「指導員が記録を書くようにしている」45.3%、「その日ごとの振り返りは実施していない」18.4%であった。

技能実習生が業務に従事するその日ごとに、指導した技術の習得について振り返りを実施していますか。
(あてはまるものをすべて選択)

図表 24 業務に従事する日ごとの技術習得に関する振り返りの実施状況

	n	%
技能実習生に振り返りの記録を書かせるようにしている	474	47.9
指導員が記録を書くようにしている	448	45.3
その他	77	7.8
その日ごとの振り返りは実施していない	182	18.4
計	989	100.0

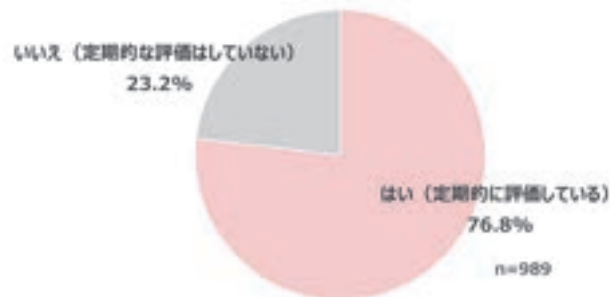
6. 技能実習生に対する介護技術・知識の定期的な評価

(1) 介護技術・知識の定期的な評価の実施状況

技能実習生ひとりひとりについて、介護技術・知識の習得状況を定期的に評価している施設・事業所は76.8%であった。

技能実習生ひとりひとりについて、介護技術・知識の習得状況を定期的に評価していますか？
 ※ここでいう評価とは、業務中に個々の業務に対して行う評価ではなく、技能実習生の技能習得が全体としてうまく進捗しているかどうかに関する評価を指します。(1つだけ選択)

図表 25 介護技術・知識の定期的な評価の実施状況



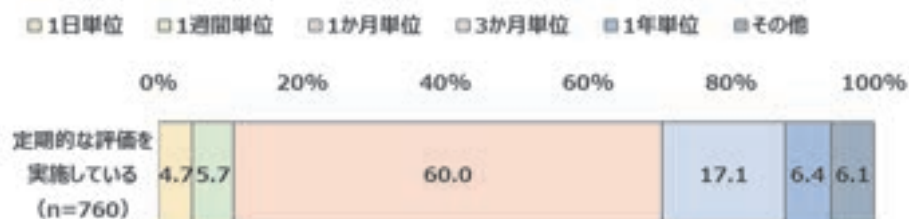
(2) 介護技術・知識の定期的な評価の実施頻度

介護技術・知識の定期的な評価を実施している施設・事業所に対して、頻度を尋ねたところ、「1か月単位」が最も多く60.0%、次いで「3か月単位」17.1%、「1年単位」6.4%であった。

技能実習生の介護技術・知識の習得状況を定期的に評価していると回答した方にお聞きます。
 どのくらいの頻度で評価を実施していますか。最も近いものをお答えください。
 ※ここでいう評価とは、業務中に個々の業務に対して行う評価ではなく、技能実習生の技能習得が全体としてうまく進捗しているかどうかに関する評価を指します。(1つだけ選択)

図表 26 介護技術・知識の定期的な評価の実施頻度

(介護技術・知識の定期的な評価を実施している場合のみ回答)



(3) 介護技術・知識の定期的な評価の評価主体

介護技術・知識の定期的な評価を実施している施設・事業所に対して、評価主体を尋ねたところ、「実習生による自己評価と他者評価どちらも行っている」が最も多く 60.9%、次いで「実習生に対する他者評価のみ行っている」36.1%、「実習生による自己評価のみ行っている」3.0%であった。

技能実習生の介護技術・知識の習得状況を定期的に評価していると回答した方にお聞きます。
 評価は自己評価でしょうか、他者評価でしょうか。
 ※ここでいう評価とは、業務中に個々の業務に対して行う評価ではなく、技能実習生の技能習得が全体としてうまく進捗しているかどうかに関する評価を指します。(1つだけ選択)

図表 27 介護技術・知識の定期的な評価の評価主体
 (介護技術・知識の定期的な評価を実施している場合のみ回答)

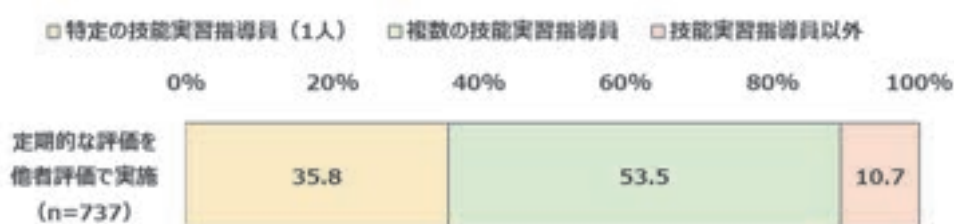


(4) 介護技術・知識を他者評価する場合の評価主体

介護技術・知識の定期的な評価を他者評価で実施している施設・事業所に対して、その評価主体を尋ねたところ、「複数の技能実習指導員」が最も多く 53.5%、次いで「特定の技能実習指導員 (1人)」35.8%、「技能実習指導員以外」10.7%であった。

技能実習生の介護技術・知識の習得状況の評価 (他者評価) は、誰が実施していますか? 最も近いものをお答えください。
 ※ここでいう評価とは、業務中に個々の業務に対して行う評価ではなく、技能実習生の技能習得が全体としてうまく進捗しているかどうかに関する評価を指します。(1つだけ選択)

図表 28 介護技術・知識を他者評価する場合の評価主体
 (介護技術・知識の定期的な評価を他者評価で実施している場合のみ回答)



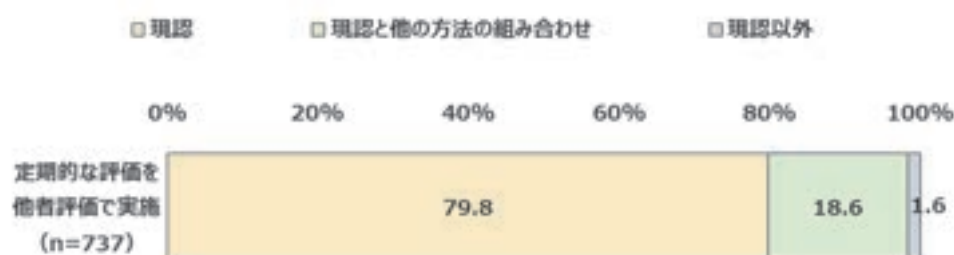
(5) 介護技術・知識の習得状況の評価方法

介護技術・知識の定期的な評価を他者評価で実施している施設・事業所に対して、その評価方法を尋ねたところ、「現認」が最も多く 79.8%、次いで「現認と他の方法の組み合わせ」18.6%、「現認以外」1.6%であった。

技能実習生の介護技術・知識の習得状況の評価（他者評価）は、どのような方法で評価していますか？
（1つだけ選択）

図表 29 介護技術・知識の習得状況の評価方法

（介護技術・知識の定期的な評価を他者評価で実施している場合のみ回答）



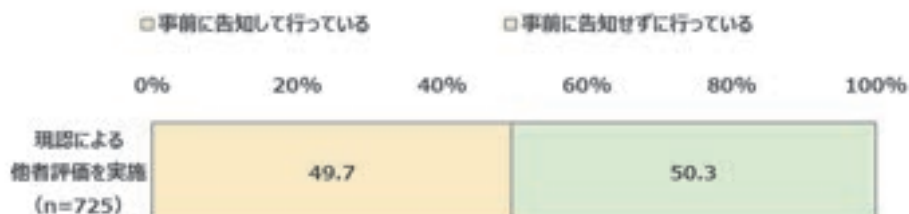
(6) 現認により介護技術・知識の評価をする場合の事前告知の有無

現認による他者評価を実施している施設・事業所がある事業所に対して、事前告知の有無を尋ねたところ、「事前に告知せずに行っている」が 50.3%、「事前に告知して行っている」が 49.7%であり、割合が拮抗していた。

技能実習生の介護技術・知識の習得状況を現認により評価する際、技能実習生本人に事前に告知して行っていますか？
（1つだけ選択）

図表 30 現認により介護技術・知識の評価をする場合の事前告知の有無

（現認による他者評価を実施している場合のみ回答）



(7) 介護技術・知識の評価時に活用している資料・ツール等の有無

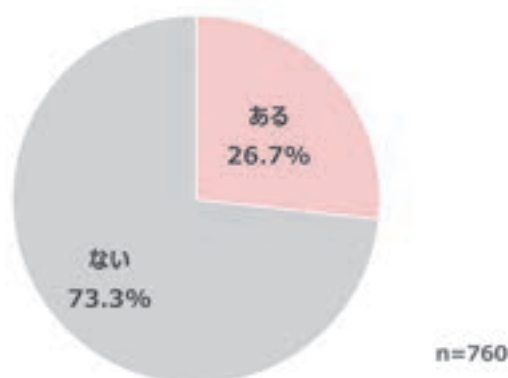
介護技術・知識の定期的な評価を実施している施設・事業所に対して、評価時に活用している資料・ツール等の有無を尋ねたところ、「ない」が多く73.3%、「ある」は26.7%であった。

技能実習生の介護技術・知識の習得状況の評価する際、活用している資料やツールはありますか？

※技能実習実施計画書以外で、という前提でお答えください。

※ここでいう評価とは、業務中に個々の業務に対して行う評価ではなく、技能実習生の技能習得が全体としてうまく進捗しているかどうかに関する評価を指します。(1つだけ選択)

図表 31 介護技術・知識の評価時に活用している資料・ツール等の有無
(介護技術・知識の定期的な評価を実施している場合のみ回答)



「介護技術・知識の評価時に活用している資料・ツール等」について、具体的な資料・ツール名等を自由回答形式で回答を求めた。下記に一部抜粋を示す。

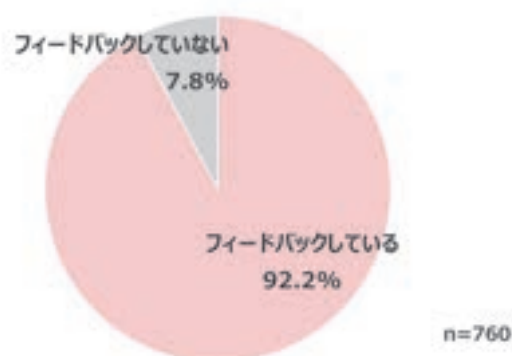
- ・ OJT チェックシート
- ・ 介護教育基礎技術マニュアル 法人内の介護全般
- ・ 当施設独自の教育評価表 (自己評価・指導係からの評価、業務ごとの評価、次回の評価日までの目標など)
- ・ eラーニング看護補助者用チェックリスト(技術の方法・根拠が示されている)
- ・ eラーニングリスクマネジメントからの抜粋
- ・ 業務チェック表 (介護業務が正確にできているか確認するため。介護業務全般が評価できるようになっている。)
- ・ キャリア段位制度を施設の実態に合わせてアレンジしたもの
- ・ 実習月報 (目標設定と自己評価と指導者のフィードバック)

(8) 介護技術・知識の評価後のフィードバック実施状況

介護技術・知識の定期的な評価を実施している施設・事業所に対して、評価したのちに技能実習生にフィードバックしているかを尋ねたところ、「フィードバックしている」が多く 92.2%、「フィードバックしていない」は7.8%であった。

技能実習生の介護技術・知識の習得状況の評価したのち、技能実習生本人にフィードバックしていますか？（1 つだけ選択）

図表 32 介護技術・知識の評価後のフィードバック実施状況
(介護技術・知識の定期的な評価を実施している場合のみ回答)



(9) 日本人介護職員による OJT 改善に向けた話し合い

「日常業務の中で話し合っている」が最も多く 53.3%、次いで「不定期で話し合いの機会を設けている」35.4%、「定期的に話し合いの機会を設けている」27.1%であった。

技能実習生の OJT に関わる技能実習指導員やその他日本人介護職員同士で、OJT の方法について振り返ったりより良い方法がないか話しあう機会を設けていますか？（あてはまるものをすべて選択）

図表 33 日本人介護職員による OJT 改善に向けた話し合い

	n	%
日常業務の中で話し合っている	527	53.3
不定期で話し合いの機会を設けている	350	35.4
定期的に話し合いの機会を設けている	268	27.1
話し合いの機会はほとんど設けていない	54	5.5
計	989	100.0

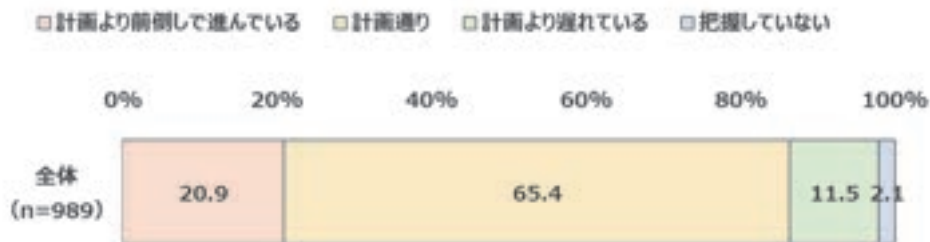
7. OJT の順調度および技能習得に関する当初期待と実際の比較

(1) OJT の順調度

「計画通り」が最も多く 65.4%、次いで「計画より前倒しで進んでいる」20.9%、「計画より遅れている」11.5%であった。

貴施設・事業所全体として、技能実習生に対する指導の進捗は、当初の計画と比較してどのような状況でしょうか？
(1つだけ選択)

図表 34 OJT の順調度

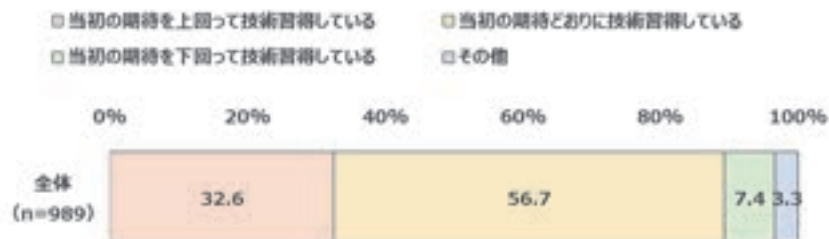


(2) 技能習得に関する当初期待と実際の比較

「当初の期待どおりに技術習得している」が最も多く 56.7%、次いで「当初の期待を上回って技術習得している」32.6%、「当初の期待を下回って技術習得している」7.4%であった。

貴施設・事業所全体として、技能実習生は当初の期待どおりに技術を習得できていますか？ (1つだけ選択)

図表 35 技能習得に関する当初期待と実際の比較



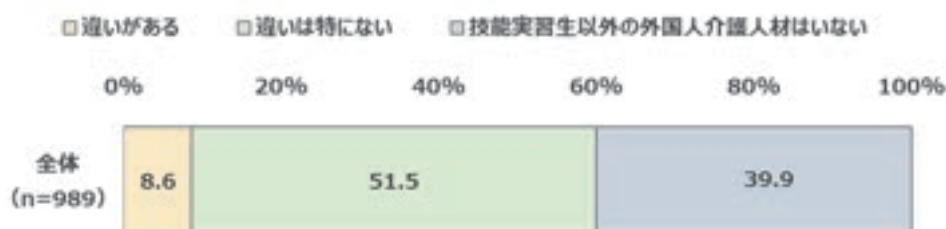
8. その他

(1) 技能実習生と他の外国人介護人材とのOJTの違い

「違いは特にない」が51.5%、「違いがある」8.6%であった。「技能実習生以外の外国人介護人材はいない」は39.9%であった。

技能実習生に対するOJTと、それ以外の外国人介護人材に対するOJTを比較したとき、「技能実習実施計画表に基づいて進める」こと以外で、進め方について何か違いはありますか？（1つだけ選択）

図表 36 技能実習生と他の外国人介護人材とのOJTの違い



(2) 日本人介護職員に対するOJTにおけるキャリア段位活用状況

「いいえ（活用していない）」が最も多く74.8%、次いで「はい：アセッサーによる評価を実施しておらず、キャリア段位の項目を活用している」16.1%、「はい：アセッサーによる評価を実施している」9.1%であった。

日本人介護職員に対するOJTでキャリア段位制度を活用していますか。（1つだけ選択）

図表 37 日本人介護職員に対するOJTにおけるキャリア段位活用状況

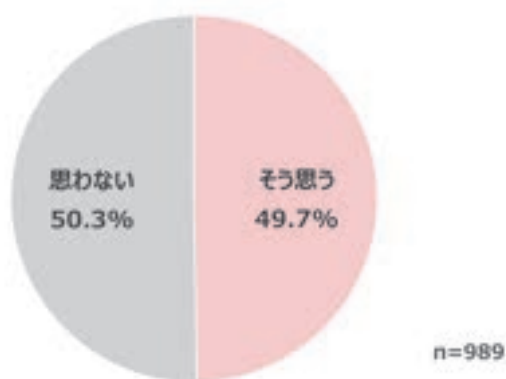


(3) 日本人介護職員に対するOJTについて見直すきっかけとなっているか

「そう思う」が49.7%、「思わない」が50.3%であり、割合は拮抗していた。

技能実習生を受け入れ、技能実習生に対してOJTを行うことが、日本人介護職員に対するOJTのあり方を見直す機会になっていると思いますか？（1つだけ選択）

図表 38 日本人介護職員に対するOJTについて見直すきっかけとなっているか



「日本人介護職員に対するOJTについて見直すきっかけとなっているか」について、「そう思う」と回答した施設・事業所に対して、具体的な内容を自由回答形式で回答を求めた。下記に一部抜粋を示す。

- ・ 来日して言葉の壁や文化・習慣が違う中で、心意気や取り組む姿勢・態度が日本人介護職員に大きな刺激を与え切磋琢磨できる環境になってきた。お互い助け合いの精神をもって利用者に寄り添えているように思われる。
- ・ 技能実習生の取り組む姿勢をみて、日本人の職員の業務に対する取り組み姿勢が変化した。
- ・ 指導することで普段の業務を見直す機会となっている。
- ・ OJTチェックシートを定期的に見直している。
- ・ 日本語の表現等、従来使っていたものを改良した。
- ・ OJTの在り方よりは、介護のマナー化に指導者が技能実習生へ指導を行うことで自分達が行っている介護について気づいたことがあり、それを活かしたサービスの質を高めて行けるようになった。
- ・ すぐに結果を求めず、職員の個々のペースに合わせるようになった。
- ・ 初心に戻る（自己言動評価）。

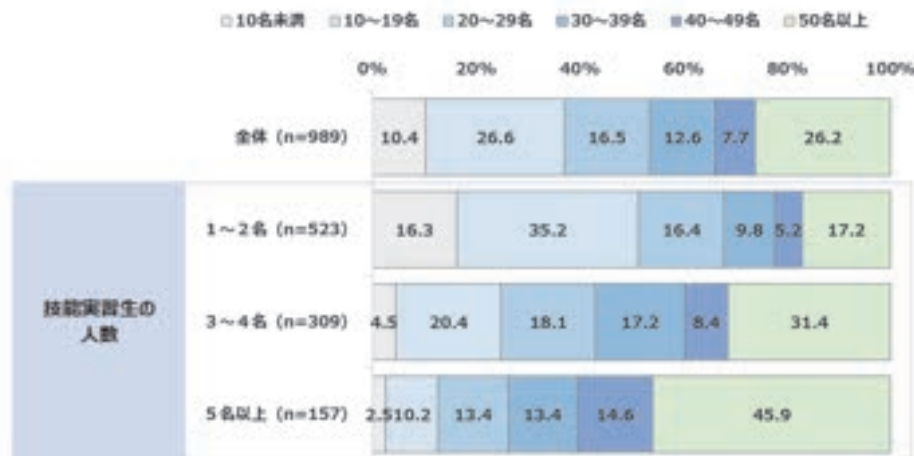
9. クロス集計：技能実習生の人数別

技能実習生の人数別に施設・事業所の特徴、OJTの実態を分析した。分析の結果、一定の傾向差がみられたものを掲載する。

(1) 日本人介護職員数

技能実習生の人数が多い施設・事業所ほど、日本人介護職員数が多い傾向がみられた。

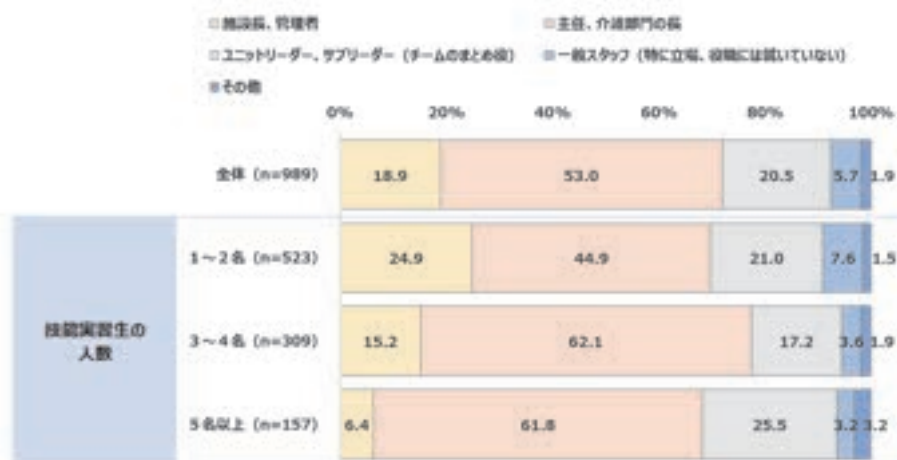
図表 39 技能実習生の人数別・日本人介護職員数



(2) 主たる技能実習指導員の立場・職位

技能実習生の人数が「1~2名」の場合、「施設長、管理者」の割合が24.9%であり、「3~4名」「5名以上」と比較すると相対的に高い。

図表 40 技能実習生の人数別・主たる技能実習指導員の立場・職位



(3) 主たる技能実習指導員の保有資格・受講した講習

技能実習生の人数が「3～4名」「5名以上」の施設・事業所は、「介護の技能実習指導員講習会」を受講している割合が相対的に高い。

図表 41 技能実習生の人数別・主たる技能実習指導員の保有資格・受講した講習

	技能実習生の人数			
	全体	1～2名	3～4名	5名以上
	n=989	n=523	n=309	n=157
				(%)
介護の技能実習指導員講習会	33.9	29.8	37.2	40.8
介護支援専門員（ケアマネジャー）	26.1	27.7	27.2	18.5
介護福祉士実習指導者講習 修了	19.2	17.6	20.4	22.3
介護福祉士実務者研修 修了	14.2	17.4	11.7	8.3
介護プロフェッショナルキャリア段位制度のアセッサー講習 修了	13.1	12.0	14.6	14.0
看護師・准看護師	11.6	8.8	13.9	16.6
認定介護福祉士	5.2	6.7	4.5	1.3
実務者研修教員講習 修了	4.9	5.2	4.9	3.8
外国人技能実習制度の試験評価者	3.5	3.4	4.2	2.5
介護福祉士養成施設等における介護領域科目の教授や指導の経験	2.2	1.7	2.3	3.8
介護プロフェッショナルキャリア段位制度のレベル認定取得	2.1	2.5	1.6	1.9
その他	7.5	6.5	10.7	4.5
介護福祉士以外の資格は持っていない	22.1	23.9	19.1	22.3

(4) 技能実習生に対するOJTに関して工夫・重視していること

技能実習生の人数が「5名以上」の施設・事業所は、「相談しやすいように、メンター職員を配置している」「個別に進捗状況について、チェックリストを用いてPDCAを確認している」「学習しやすいよう、施設・事業所内に勉強室（学習スペース）を設けている」の割合が相対的に高い。これらの項目以外についても、全体的に工夫・重視していることが多い傾向がうかがえる。

図表 42 技能実習生の人数別・技能実習生に対するOJTに関して工夫・重視していること

	技能実習生の人数			
	全体	1～2名	3～4名	5名以上
	n=989	n=523	n=309	n=157
	(%)			
日本語をできるだけゆっくり正確に話すようにしている	95.1	95.0	94.5	96.8
できるだけ介護場面に立ち会うようにしている	78.4	76.9	81.6	77.1
教える人によって教え方がばらつかないように、教える側同士で教え方のすり合わせをしている	58.8	58.9	57.6	61.1
現場で相談できるよう、ベテラン職員等の経験年数のある介護職員とチームを組むようにしている	55.0	51.8	57.6	60.5
指導で用いる用語・言葉が教える人や場面によってばらつかないように、事前に用語・言葉の使い方を揃えている	27.7	26.4	29.1	29.3
相談しやすいように、メンター職員を配置している	25.8	25.8	23.0	31.2
個別に進捗状況について、チェックリストを用いてPDCAを確認している	22.9	20.1	24.3	29.3
学習しやすいよう、施設・事業所内に勉強室（学習スペース）を設けている	21.1	18.7	21.7	28.0
教材等を用いて、伝えるようにしている	19.3	19.1	18.8	21.0
相手の文化、習慣を理解するために、相手国の言葉を少し覚えて話すようにしている	17.3	18.0	17.2	15.3
現場で相談できるよう、新人職員等の経験年数の浅い介護職員とチームを組むようにしている	9.3	8.6	10.4	9.6
あてはまるものはない	0.3	0.0	0.6	0.6

(5) 技能実習生へのOJTに関する課題：技能実習生にまつわる課題

技能実習生の人数が「1～2名」の施設・事業所では「技能実習生の間で心理的・感情的な衝突がある」の割合が1割を下回っているが、「3～4名」「5名以上」の施設・事業所では相対的に高い傾向がある。

図表 43 技能実習生の人数別・技能実習生へのOJTに関する課題：技能実習生にまつわる課題



(6) 技能実習生へのOJTに関する課題：指導者にまつわる課題

技能実習生の人数が「5名以上」の施設・事業所は、「指導する職員によって、同じケアであっても指導方法が異なる」「技能実習生にとってわかりやすい日本語を適切に使うスキルが不足している」の割合が相対的に高い。

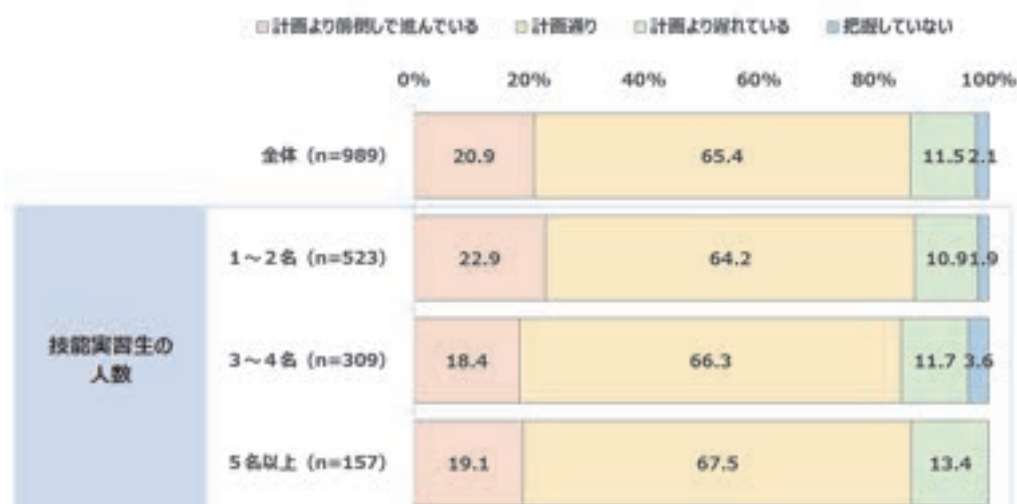
図表 44 技能実習生の人数別・技能実習生へのOJTに関する課題：指導者にまつわる課題



(7) OJTの順調度

技能実習生の人数が「1～2名」の施設・事業所は、「計画より前倒して進んでいる」の割合が相対的に高い。ただし、「計画通り」と合算した値で傾向をみると、技能実習生の人数による差異はほぼなく、実習生の人数にあわせたOJTが実施されているものと読み取れる。

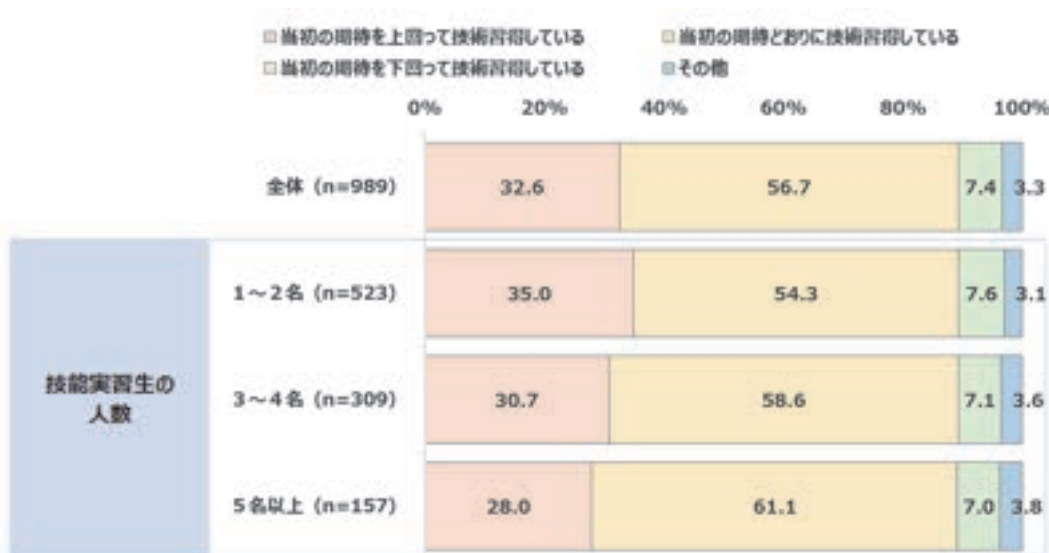
図表 45 技能実習生の人数別・OJTの順調度



(8) 技能習得に関する当初期待と実際の比較

技能実習生の人数が「1～2名」の施設・事業所は、「当初の期待を上回って技術習得している」の割合が相対的に高い。ただし、「当初の期待どおりに技術習得している」と合算した値で傾向をみると、技能実習生の人数による差異はほぼなく、実習生の人数にあわせたOJTが実施されているものと読み取れる。

図表 46 技能実習生の人数別・技能習得に関する当初期待と実際の比較



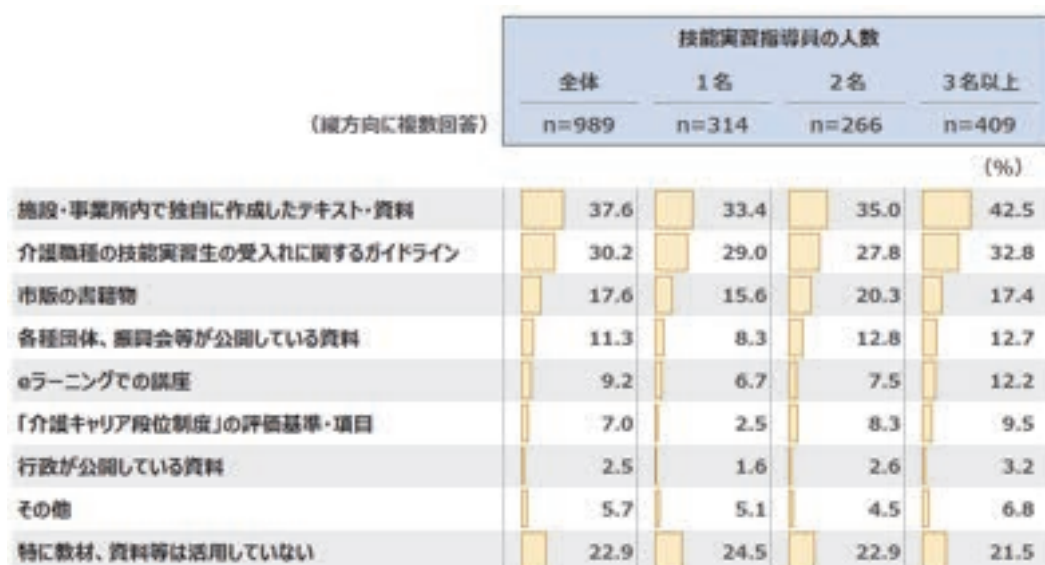
10. クロス集計：技能実習指導員の人数別

技能実習指導員の人数別に施設・事業所の特徴、OJTの実態を分析した。分析の結果、一定の傾向差がみられたものを掲載する。

(1) OJT で活用している教材等

技能実習指導員の人数が「3名以上」の施設・事業所は、「施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料」「介護職種の技能実習生の受け入れに関するガイドライン」の割合が相対的に高い。指導員が3名等以上といった施設・事業所では、教材やガイドラインなどを用いて実施方法を明確化した上で臨んでいる傾向が読み取れる。

図表 47 技能実習指導員の人数別・OJT で活用している教材等



(2) 技能実習生に活用を指示している（推奨している）教材等

技能実習指導員の人数が「3名以上」の施設・事業所は、「特に教材、資料等は活用していない」の割合が相対的に低く、何らかの教材等の活用を指示している（推奨している）傾向が高い。指導員が3名等以上といった施設・事業所では、学習教材等を活用しながら、OJTに臨んでいる傾向が読み取れる。

図表 48 技能実習指導員の人数別・技能実習生に活用を指示している（推奨している）教材等



(3) OJT に関して工夫・重視していること

技能実習指導員の人数が「3名以上」の施設・事業所は、「教える人によって教え方がばらつかないように、教える側同士で教え方のすり合わせをしている」「現場で相談できるよう、ベテラン職員等の経験年数のある介護職員とチームを組むようにしている」の割合が相対的に高い。

指導員3名以上の施設・事業所においては、「指導方法」の標準化に向けた対応や、指導体制の工夫をはかり、OJTに取り組んでいる傾向があると読みとれる。

図表 49 技能実習指導員の人数別・OJT に関して工夫・重視していること

(縦方向に複数回答)	技能実習指導員の人数			
	全体 n=989	1名 n=314	2名 n=266	3名以上 n=409
	(%)			
日本語をできるだけゆっぴり正確に話そうとしている	95.1	94.9	93.2	96.0
できるだけ介護場面立ち会うようにしている	78.4	72.9	77.4	83.1
教える人によって教え方がばらつかないように、教える側同士で教え方のすり合わせをしている	58.8	54.1	56.0	64.3
現場で相談できるよう、ベテラン職員等の経験年数のある介護職員とチームを組むようにしている	55.0	53.5	51.9	58.2
指導で用いる用語・言葉が教える人や場面によってばらつかないように、事前に用語・言葉の使い方を揃えている	27.7	25.2	24.4	31.8
相談しやすいように、メンター職員を配置している	25.8	24.8	24.4	27.4
個別に進捗状況について、チェックリストを用いてPDCAを確認している	22.9	21.0	22.2	24.7
学習しやすいよう、施設・事業所内に勉強室（学習スペース）を設けている	21.1	20.1	17.3	24.4
教材等を用いて、伝えるようにしている	19.3	16.6	16.5	23.2
相手の文化、習慣を理解するために、相手の言葉を少し覚えて話そうとしている	17.3	20.1	13.9	17.4
現場で相談できるよう、新人職員等の経験年数の浅い介護職員とチームを組むようにしている	9.3	8.9	8.3	10.3
あてはまるものはない	0.3	0.6	0.4	0.0

(4) 技能実習生への OJT に関する課題：指導者にまつわる課題

技能実習指導員の人数が「2名以上」の施設・事業所は、「指導する職員によって、同じケアであっても指導方法が異なる」の割合が相対的に高く、現場 OJT にあたっては、「指導方法の標準化」「指導の仕方」が課題となっていることが読み取れる。

図表 50 技能実習指導員の人数別・技能実習生への OJT に関する課題：指導者にまつわる課題

(縦方向に複数回答)	技能実習指導員の人数			
	全体 n=989	1名 n=314	2名 n=266	3名以上 n=409
	(%)			
通常業務が忙しく、技術指導のための時間を十分確保できない	55.0	55.7	57.1	53.1
指導する職員によって、同じケアであっても指導方法が異なる	38.5	33.8	40.2	41.1
施設・事業所全体として、指導スキルを有する職員が不足している	28.2	27.7	33.5	25.2
技能実習生にとってわかりやすい日本語を適切に使うスキルが不足している	27.3	23.6	27.1	30.3
技能実習生の資質や能力の差に合わせた柔軟な指導ができない	19.1	17.2	19.5	20.3
指導に役立つ教材がわからない	14.4	12.7	14.3	15.6
指導方法について確信が持てないまま、手探りで指導している	14.1	12.1	18.0	13.0
指導に関わる職員がチーム意識をもって指導にあたっていない	9.0	6.1	10.2	10.5
その他	2.3	3.5	1.1	2.2
指導者に関する課題はない	12.5	14.6	9.8	12.7

11. クロス集計：主たる技能実習指導員の指導講習受講状況別

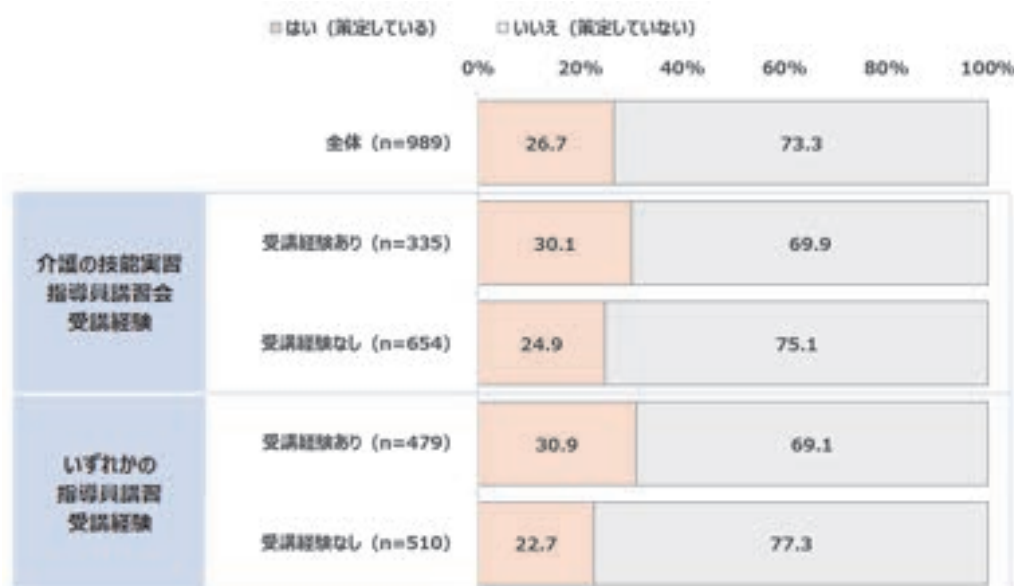
本分析では、「介護の技能実習指導員講習会」の受講経験有無を分析軸とした。また、下記の5つの講習等を「指導力向上に関連する講習等」と位置づけ、いずれかの講習を1つ以上受講した経験についても分析軸とした。施設・事業所の特徴、OJTの実態を分析し、一定の傾向差がみられたものを掲載する。

指導力向上に関連する講習等	
介護の技能実習指導員講習会	
介護福祉士実習指導者講習	
介護プロフェッショナルキャリア段位制度のアセッサー講習	
実務者研修教員講習	
介護福祉士養成施設等における介護領域科目の教授や指導の経験	

(1) 実習実施予定表をさらに詳細化した計画の策定状況

「介護の技能実習指導員講習会」「いずれかの指導員講習」どちらについても、受講経験ありの場合、実習実施予定表をさらに詳細化した計画を策定している傾向が高い。

図表 51 主たる技能実習指導員の指導講習受講状況別・実習実施予定表をさらに詳細化した計画の策定状況



(2) OJT で活用している教材等

「介護の技能実習指導員講習会」「いずれかの指導員講習」どちらについても、受講経験ありの場合、各種教材等を活用している傾向が高い。特に「介護職種の技能実習生の受入に関するガイドライン」の活用率が高い。

図表 52 主たる技能実習指導員の指導講習受講状況別・OJT で活用している教材等

(縦方向に複数回答)	介護の技能実習指導員講習会受講経験					いずれかの指導員講習受講経験					
	全体	受講経験あり		受講経験なし		全体	受講経験あり		受講経験なし		
	n=989	n=335	n=654	n=479	n=510						
											(%)
施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料	37.6	39.1	36.9	39.7	35.7						
介護職種の技能実習生の受入に関するガイドライン	30.2	37.3	26.6	35.3	25.5						
市販の書籍物	17.6	23.0	14.8	21.5	13.9						
各種団体、協会等が公開している資料	11.3	14.3	9.8	12.5	10.2						
eラーニングでの講座	9.2	11.9	7.8	11.1	7.5						
「介護キャリア段位制度」の評価基準・項目	7.0	11.3	4.7	11.5	2.7						
行政が公開している資料	2.5	3.0	2.3	2.3	2.7						
その他	5.7	3.3	6.9	3.5	7.6						
特に教材、資料等は活用していない	22.9	17.3	25.7	18.2	27.3						

(3) 技能実習生に活用を指示している（推奨している）教材等

「介護の技能実習指導員講習会」「いずれかの指導員講習」どちらについても、受講経験ありの場合、各種教材等を技能実習生に推奨している傾向が高い。

図表 53 主たる技能実習指導員の指導講習受講状況別・技能実習生に活用を指示している（推奨している）教材等

(縦方向に複数回答)	介護の技能実習指導員講習会受講経験					いずれかの指導員講習受講経験					
	全体	受講経験あり		受講経験なし		全体	受講経験あり		受講経験なし		
	n=989	n=335	n=654	n=479	n=510						
											(%)
施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料	28.9	34.3	26.1	34.9	23.3						
市販の書籍物	14.9	19.7	12.4	19.0	11.0						
各種団体、協会等が公開している資料	11.9	14.0	10.9	12.1	11.8						
eラーニングでの講座	9.8	11.0	9.2	10.9	8.8						
行政が公開している資料	1.6	1.5	1.7	1.3	2.0						
その他	7.0	7.2	6.9	7.1	6.9						
特に教材、資料等は活用していない	43.5	38.2	46.2	37.4	49.2						

(4) OJTに関して工夫・重視していること

「介護の技能実習指導員講習会」「いずれかの指導員講習」どちらについても、受講経験ありの場合、全体的に工夫・重視していることが多い。

図表 54 主たる技能実習指導員の指導講習受講状況別・OJTに関して工夫・重視していること

(縦方向に複数回答)	介護の技能実習指導員講習会 受講経験		いずれかの 指導員講習 受講経験		全体 n=989
	受講経験あり n=335	受講経験なし n=654	受講経験あり n=479	受講経験なし n=510	
	(%)				
日本語をできるだけゆっくり正確に話すようにしている	95.1	95.8	94.8	95.6	94.7
できるだけ介護場面立ち会うようにしている	78.4	80.3	77.4	80.6	76.3
教える人によって教え方がばらつかないように、 教える側同士で教え方のすり合わせをしている	58.8	68.4	54.0	64.9	53.1
現場で相談できるよう、ベテラン職員等の経験年数のある 介護職員とチームを組むようにしている	55.0	58.2	53.4	57.8	52.4
指導で用いる用語・言葉が教える人や場面によって ばらつかないように、事前に用語・言葉の使い方を揃えている	27.7	33.4	24.8	32.4	23.3
相談しやすいように、メンター職員を配置している	25.8	30.4	23.4	29.2	22.5
個別に進捗状況について、チェックリストを用いて PDCAを確認している	22.9	28.4	20.0	27.8	18.2
学習しやすいよう、施設・事業所内に 勉強室（学習スペース）を設けている	21.1	27.2	18.0	25.1	17.5
教材等を用いて、伝えるようにしている	19.3	21.8	18.0	20.7	18.0
相手の文化、習慣を理解するために、相手国の言葉を 少し覚えて話すようにしている	17.3	17.6	17.1	17.3	17.3
現場で相談できるよう、新人職員等の経験年数の浅い 介護職員とチームを組むようにしている	9.3	7.8	10.1	8.8	9.8
あてはまるものはない	0.3	0.0	0.5	0.2	0.4

12. クロス集計：OJTの順調度別、技術習得に関する当初期待と実際の比較別

OJTの順調度別、技術習得に関する当初期待と実際の比較別に、施設・事業所の特徴、OJTの実態を分析した。分析の結果、一定の傾向差がみられたものを掲載する。

(1) OJTで活用している教材等

OJTが「計画より前倒し」で進行している施設・事業所は、「介護職種の技能実習生の受入れに関するガイドライン」の割合が相対的に高い。

図表 55 OJTの順調度別、当初期待と実際の比較別・OJTで活用している教材等

	OJTの順調度						当初期待と実際の比較			
	全体	計画より前倒し	計画通り	遅行・把握していない	期待を上回る	期待通り	期待を下回る・その他			
	n=989	n=207	n=647	n=135	n=322	n=561	n=106			
	(縦方向に複数回答)									
	(%)									
施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料	37.6	36.7	38.3	35.6	37.9	38.0	34.9			
介護職種の技能実習生の受入れに関するガイドライン	30.2	35.7	28.7	28.9	32.6	30.1	23.6			
市販の書籍物	17.6	19.8	17.0	17.0	18.3	15.7	25.5			
各種団体、協会等が公開している資料	11.3	12.1	10.7	13.3	12.7	10.5	11.3			
eラーニングでの提供	9.2	6.8	10.0	8.9	8.7	9.8	7.5			
「介護キャリア育成」の評価基準・項目	7.0	9.7	6.6	4.4	8.7	6.4	4.7			
行政が公開している資料	2.5	3.9	2.2	2.2	2.8	2.7	0.9			
その他	5.7	8.2	5.1	4.4	7.5	5.0	3.8			
特に教材、資料等は活用していない	22.9	19.3	23.8	23.7	20.2	24.2	23.6			

(2) OJT に関して工夫・重視していること

当初期待と実際の比較で「期待を上回る」と回答した施設・事業所は、「教える人によって教え方がばらつかないように、教える側同士で教え方のすり合わせをしている」の割合が相対的に高い。

図表 56 OJT の順調度別、当初期待と実際の比較別・
OJT に関して工夫・重視していること

	OJT の順調度				当初期待と実際の比較		
	全体	計画より 前倒し	計画通り	実行・把握 していない	期待を 上回る	期待通り	期待を 下回る・ その他
	n=989	n=207	n=647	n=135	n=322	n=561	n=106
(縦方向に複数回答)	(%)						
日本語をできるだけゆっくり正確に話すようにしている	95.1	94.2	95.3	94.8	94.1	95.0	99.1
できるだけ介護現場に立ち会うようにしている	76.4	81.6	78.5	72.6	79.2	78.4	75.5
教える人によって教え方がばらつかないように、 教える側同士で教え方のすり合わせをしている	58.8	61.4	60.4	47.4	65.2	56.3	52.8
現場で相談できるよう、ベテラン職員等の経験年数のある 介護職員とチームを組むようにしている	55.0	61.4	54.1	49.6	61.5	52.4	49.1
現場で用いる用語・言葉が教える人や現場によって ばらつかないように、事前に用語・言葉の使い方を揃えている	27.7	26.1	29.2	23.0	27.6	27.8	27.4
相談しやすいように、メンター職員を配置している	25.8	34.3	23.6	23.0	31.7	23.2	21.7
個別に進捗状況について、チェックリストを用いて POCAを確認している	22.9	18.8	25.0	18.5	25.8	20.5	26.4
学習しやすいよう、施設・事業所内に勉強室 (学習スペース) を設けている	21.1	20.8	21.2	21.5	21.4	20.3	24.5
教材等を用いて、伝えるようにしている	19.3	18.8	19.2	20.7	22.7	16.8	22.6
相手の文化、習慣を理解するために、相手の言葉を 少し遅らせて話すようにしている	17.3	19.3	18.1	10.4	18.9	16.8	15.1
現場で相談できるよう、新人職員等の経験年数の浅い 介護職員とチームを組むようにしている	9.3	11.6	8.7	8.9	11.8	7.5	11.3
あてはまるものはない	0.3	0.0	0.3	0.7	0.0	0.5	0.0

(3) 技能実習生へのOJTに関する課題：技能実習生にまつわる課題

OJTの順調度に関して「遅行（計画より遅れている）・把握していない」と回答した施設・事業所は、技能実習生にまつわる様々な課題を抱えているが、特に「言葉の問題でコミュニケーションが円滑にとれず、介護技術の習得にマイナスの影響が出ている」の割合が高く、55.6%と過半数を超える。

同項目は、当初期待と実際の比較で「期待を下回る・その他」と回答した施設・事業所でも割合が高く、74.5%に達している。

この他、OJT「遅行・把握していない」施設・事業所においては、「安全・衛生管理の理解が難しい(43.3%)」が全体より16.4ポイント高く、「自立支援の理解が難しい(40.7%)」は全体より15.6ポイント高く、介護の基本の技能移転においても難しさに直面していることが伺える。

上記項目につき、当初期待との比較で「期待を下回る」との回答施設・事業所においても、同様の傾向である。

図表 57 OJTの順調度別、当初期待と実際の比較別・
技能実習生へのOJTに関する課題：技能実習生にまつわる課題



(4) 技能実習生へのOJTに関する課題：指導者にまつわる課題

OJTの順調度に関して「遅行（計画より遅れている）・把握していない」と回答した施設・事業所は、技能実習指導員にまつわる様々な課題を抱えているが、特に「通常業務が忙しく、技術指導のための時間を十分確保できない」の割合が高く、71.1%と過半数を超える。

同項目は、当初期待と実際の比較で「期待を下回る・その他」と回答した施設・事業所でも割合が高く、66.0%である。

図表 58 OJTの順調度別、当初期待と実際の比較別・
技能実習生へのOJTに関する課題：指導者にまつわる課題

	OJTの順調度			当初期待と実際の比較			
	全体 n=989	計画より 遅れし n=207	計画通り n=647	遅行・把握 していない n=135	期待を 上回る n=322	期待通り n=561	期待を 下回る・ その他 n=106
	(横方向に複数回答)						
	(%)						
通常業務が忙しく、技術指導のための時間を十分確保できない	55.0	53.1	52.2	71.1	47.5	57.2	66.0
指導する職員によって、同じクアであっても指導方法が異なる	38.5	35.7	38.3	43.7	36.6	38.9	42.5
施設・事業所全体として、指導スキルを有する職員が不足している	28.2	24.2	26.9	40.7	23.6	28.3	41.5
技能実習生にとってわかりやすい日本語を適切に使うスキルが不足している	27.3	24.2	25.7	40.0	21.4	28.7	37.7
技能実習生の資質や能力の差に合わせた柔軟な指導ができない	19.1	15.5	18.1	29.6	10.2	23.0	25.5
指導に役立つ教材がわからない	14.4	12.6	13.3	22.2	12.1	14.4	20.8
指導方法について確信が持てないまま、手探りで指導している	14.1	11.1	12.7	25.2	11.8	13.7	22.6
指導に関わる職員がチーム意識をもって指導にあてられていない	9.0	10.6	7.0	16.3	5.9	9.3	17.0
その他	2.3	2.9	1.9	3.7	2.5	2.3	1.9
指導者に関連する課題はない	12.5	16.4	12.2	8.1	17.1	11.1	6.6

(5) 業務に従事する日ごとの技術習得に関する振り返りの実施状況

OJT の順調度に関して「遅行（計画より遅れている）・把握していない」と回答した施設・事業所は、「その日ごとの振り返りは実施していない」の割合が相対的に高く、25.9%であった。また、「指導員が記録を書くようにしている」の割合が相対的に低い（35.6%）。振り返りを実施していない、あるいは指導員が関与せず技能実習生に任せている傾向が示唆される。

図表 59 OJT の順調度別、当初期待と実際の比較別・業務に従事する日ごとの技術習得に関する振り返りの実施状況



(6) 介護技術・知識の定期的な評価の実施状況

OJT の順調度に関して「計画より遅れている・把握していない」と回答した施設・事業所は、介護技術・知識の定期的な評価の実施率が相対的に低い。

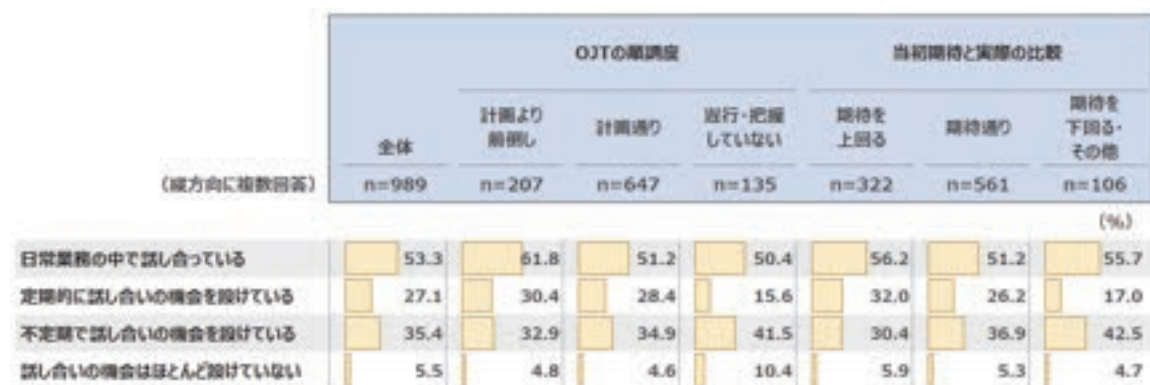
図表 60 OJT の順調度別、当初期待と実際の比較別・介護技術・知識の定期的な評価の実施状況



(7) 日本人介護職員による OJT 改善に向けた話し合い

OJT が「計画より前倒し」で進行している施設・事業所は、「日常業務の中で話し合っている」の割合が相対的に高い。

図表 61 OJT の順調度別、当初期待と実際の比較別・日本人介護職員による OJT 改善に向けた話し合い



(8) 日本人介護職員に対する OJT における介護キャリア段位制度活用状況

OJT が「計画より前倒し」で進行している施設・事業所は、介護キャリア段位制度の活用度が高い。当初期待と実際の比較で「期待を上回る」と回答した施設・事業所にも同様の傾向がみられた。

図表 62 OJT の順調度別、当初期待と実際の比較別・日本人介護職員に対する OJT における介護キャリア段位制度の活用状況



13. 施設・事業所アンケートのまとめ・考察

(1) 主たる調査結果：単純集計

1. 施設・事業所の属性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人種別：「社会福祉法人（社協以外）」49.2%、「営利法人」25.0%、「医療法人」20.1% ・ サービス種別：「介護老人福祉施設」38.1%、「認知症対応型共同生活介護」13.1%、「介護老人保健施設」9.6% ・ 日本人従業員数：「50名以上」46.4%が最も多く、次いで「10～19名」20.1%、「20～29名」11.5% ・ 日本人介護職員数：「10～19名」26.6%が最も多く、次いで「50名以上」26.2%、「20～29名」16.5%
2. 外国人介護人材の受け入れ状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技能実習生の1施設・事業所あたり人数（平均値）：3.02人。「1名」20.3%、「2名」32.6%であり、合わせると5割超。
3. 技能実習生に対するOJTに関する体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1施設・事業所あたりの技能実習指導員の人数：「2人」22.9%が最も多く、次いで「6人～10人」17.9%、「1人」15.7% ・ 3人以下の割合を合算すると52.6%であり、過半数を超える。 ・ 主たる技能実習指導員の立場・職位：「主任、介護部門の長」53.0%、「ユニットリーダー、サブリーダー」20.5%、「施設長、管理者」18.9% ・ 主たる技能実習指導員について 介護業務経験年数：「10年以上」82.2% 保有資格・受講した講習等 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護の技能実習指導員講習会」33.9% ✓ 「介護福祉士実習指導者講習 修了」19.2% ✓ 「何らかの指導力向上に関連する講習等」受講率：48.4% ・ 技能実習生に対する指導が修了するまでに関与する技能実習指導員の人数：「1名」31.7%、「2名」26.9%、「3名」17.0% ・ 複数の技能実習指導員が指導に関与する場合の役割分担：「配属部署ごとに分担」45.9%、次いで「教える介護技術領域ごとに、担当指導員が分かっている」14.5%、「期間による分担」9.3%
4. 技能実習生に対するOJTの計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習実施予定表の作成方針：「定型化（標準化）された実習実施予定表があり、それを用いている」66.6% ・ 実習実施予定表をさらに詳細化した計画を策定：26.7% ・ 詳細計画で用いられている時間単位：「月単位」55.7%、「日単位」25.0%、「週単位」11.4%
5. 技能実習生に対するOJTの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ OJTで活用している教材等：「施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料」37.6%、「介護職種の技能実習生の受入れに関するガイドライン」30.2%、「市販の書籍物」17.6% ・ 技能実習生に活用を指示している教材等：「施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料」28.9%、「市販の書籍物」14.9%、「各種団体、振興会等が公開している資料」11.9%

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技能実習生に対する OJT に関して工夫・重視していること <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「日本語をできるだけゆっくり正確に話すようにしている」 95.1% ✓ 「できるだけ介護場面に立ち会うようにしている」 78.4% ✓ 「教える人によって教え方がばらつかないように、教える側同士で教え方のすり合わせをしている」 58.8% ・ OJT に関する課題：技能実習生にまつわる課題 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「言葉の問題でコミュニケーションが円滑にとれず、介護技術の習得にマイナスの影響が出ている」 35.3% ✓ 「日本の介護の現場で求められる「安全」や「衛生」の理解が難しい」 26.6% ✓ 「「自立支援」についての理解が難しい」 25.1% ・ OJT に関する課題：指導者にまつわる課題 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「通常業務が忙しく、技術指導のための時間を十分確保できない」 55.0% ✓ 「指導する職員によって、同じケアであっても指導方法が異なる」 38.5% ✓ 「施設・事業所全体として、指導スキルを有する職員が不足している」 28.2% ・ 業務従事日ごとの技術習得に関する振り返り：「技能実習生に振り返りの記録を書かせるようにしている」 47.9%、「指導員が記録を書くようにしている」 45.3%、「その日ごとの振り返りは実施していない」 18.4%
<p>6. 技能実習生に対する介護技術・知識の定期的な評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護技術・知識の定期的な評価の実施：「実施している」 76.8% ※ 主に1か月単位で実施 ・ 介護技術・知識の評価主体：「他者評価」 36.1%、「自己評価と他者評価」 60.9% ・ 介護技術・知識の習得状況の評価方法：「現認」 79.8% ・ 評価時に活用している資料・ツール等：「ない」 73.3% ・ 介護技術・知識の評価後のフィードバック：「フィードバックしている」 92.2% ・ 日本人介護職員による OJT 改善に向けた話し合い：「日常業務の中で話し合っている」 53.3%、「不定期で話し合いの機会を設けている」 35.4%、「定期的に話し合いの機会を設けている」 27.1%
<p>7. OJT の順調度および技能習得に関する当初期待と実際の比較</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ OJT の順調度：「計画どおり」 65.4%、「計画より前倒して進んでいる」 20.9% 合計 86.3% ・ 技能習得に関する当初期待と実際の比較：「期待どおり」 56.7%、「期待を上回る」 32.6% 合計 89.3%
<p>8. その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技能実習生と他の外国人介護人材との OJT の違い：「違いは特にない」が 51.5%、「違いがある」 8.6% ・ 日本人介護職員に対する OJT における介護キャリア段位制度の活用状況 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「はい：アセッサーによる評価を実施しておらず、キャリア段位の項目を活用している」 16.1% ✓ 「はい：アセッサーによる評価を実施している」 9.1% ・ 日本人介護職員に対する OJT について見直すきっかけとなっているか：「そう思う」 49.7%、「思わない」 50.3%

(2) 単純集計結果より

- 今回のアンケート結果においては、介護技能実習生の受入れ状況として2名以内とする施設・事業所が52.9%を占めている。
- 一方、技能実習指導員は、3名以内とする施設・施設事業所が52.6%となっている。
- 1人の技能実習生に対して、責任を持って関与する技能実習指導員数は、1名が31.7%と最も多く、平均でみると、2.5人である。アンケート結果からは、技能実習制度の介護固有要件として示す、「技能実習生5名につき1名以上の技能実習指導員の配置」を上回る配置をとり、実習指導・技術移転が行われている実態といえる。
- 技能実習生に対するOJTを推進する「主たる技能実習指導員」は、「主任、介護部門の長」「ユニットリーダー、サブリーダー」といった現場リーダーが担う傾向が高い（7割超）。
- 主たる技能実習指導員の経験年数をみてみると、10年以上とする割合は、82.2%であり、制度の介護固有要件（5年）を上回る、経験年数を積んでいる指導員が指導にあたっている実態が示された。
- 主たる技能実習指導員につき、「技能実習指導員講習会」受講は33.9%であった。「何らかの指導力向上に関連する講習等」の受講率でみると、約5割（48.4%）となっている。
- アンケート結果からは、基準に示す配置よりも手厚い配置により、経験年数のある指導員が、OJTを牽引している状況が読み取れる。
- OJTでは、様々な教材・資料が活用されている。「施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料」（4割弱）、次いで「介護職種の技能実習生の受入れに関するガイドライン」（約3割）であった。
- OJTでの工夫・重視点としては、「日本語をできるだけゆっくり正確に話す」が最も多く（95%）、日本語による伝達、意思疎通に配慮していることが示された。次いで「できるだけ介護場面に立ち会うようにしている」（78.4%）と「現認によるOJT」をするようにしていること、「教え方がばらつかないように、教え方のすり合わせをしている」が58.8%と続く。さらに、指導者側がチームで指導していくことを前提とした工夫・重視点も上位項目に挙げられており、指導者側による指導方法の工夫がなされていることが示された。
- 多くの施設・事業者は、業務従事日ごとに技術習得に関する振り返りを行っている（約8割）。また、76.8%の施設・事業所が介護技術・知識の習得状況の定期的な評価を行っている（自己評価と他者評価、現認が中心）。評価結果は技能実習生にフィードバックされている（フィードバック実施率92.2%）。日本人介護職員によるOJT改善に向けた話し合いも積極的に行われている。一方で、評価時に資料・ツール等を用いている施設・事業所は、3割弱（26.7%）に留まっている。
- アンケート結果からは、技能実習生に対するOJTは技能実習計画に則り、経験年数を有する指導者の関わりのもとで、現認を伴う指導が行われていること、現認評価を行い、結果をフィードバックさせながら、OJT改善の話し合いの機会を設け、進められていると読み取れる。
- こうした状況を背景に、多くの施設・事業所は、技能実習生に対するOJTが「計画どおり」「計画より前倒しで進行」していると認識している（合算値でみると86%）。また、技能習得も「期待どおり」または「期待を上回っている」と認識している（合算値でみると約9割）。

(3) 主たる調査結果：クロス集計

<p>技能実習生の人数別</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人介護職員数：技能実習生の人数が多い施設・事業所ほど、日本人介護職員数が多い。 ・ 主たる技能実習指導員の立場・職位：技能実習生の人数が1～2名の場合、「施設長、管理者」の割合が24.9%であり、3～4名、5名以上と比較すると相対的に高い。 ・ 主たる技能実習指導員の保有資格・受講した講習：技能実習生の人数が「5名以上」の施設・事業所は、「介護の技能実習指導員講習会」を受講している割合が相対的に高い。 ・ 技能実習生に対するOJTに関して工夫・重視していること：全体的に工夫・重視していることが多い傾向。 ・ 技能実習生にまつわるOJTの課題：技能実習生が3～4名、5名以上の施設・事業所では「技能実習生の間で心理的・感情的な衝突がある」の割合が相対的に高い傾向。 ・ 技能実習指導員にまつわるOJTの課題：技能実習生の人数が「5名以上」の施設・事業所は「指導する職員によって、同じケアであっても指導方法が異なる」「技能実習生にとってわかりやすい日本語を適切に使うスキルが不足」の割合が相対的に高い。 ・ OJTの順調度：技能実習生の人数が「1～2名」の施設・事業所は、「計画より前倒して進んでいる」の割合が相対的に高い。ただし、「計画通り」と合算した値で傾向をみると、技能実習生の人数による差異はほぼない。 ・ 技能習得に関する当初期待と実際の比較：技能実習生の人数が「1～2名」の施設・事業所は、「当初の期待を上回って技術習得している」の割合が相対的に高い。ただし、「当初の期待どおりに技術習得している」と合算した値で傾向をみると、技能実習生の人数による差異はほぼない。
<p>技能実習指導員の人数別</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ OJTで活用している教材等：技能実習指導員の人数が「3名以上」の施設・事業所は、「施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料」「介護職種の技能実習生の受け入れに関するガイドライン」の割合が相対的に高い。 ・ 技能実習生に活用を指示している（推奨している）教材等：技能実習指導員の人数が「3名以上」の施設・事業所は、「特に教材、資料等は活用していない」の割合が相対的に低く、何らかの教材等の活用を指示している（推奨している）傾向が高い。 ・ OJTに関して工夫・重視していること：技能実習指導員の人数が「3名以上」の施設・事業所は、「教える人によって教え方がばらつかないように、教える側同士で教え方のすり合わせをしている」「現場で相談できるよう、ベテラン職員等の経験年数のある介護職員とチームを組むようにしている」の割合が相対的に高い。 ・ 指導者にまつわるOJTの課題：技能実習指導員の人数が「2名以上」の施設・事業所は、「指導する職員によって、同じケアであっても指導方法が異なる」の割合が相対的に高い。
<p>主たる技能実習指導員の指導講習受講状況別</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習実施予定表をさらに詳細化した計画の策定状況：「介護の技能実習指導員講習会」「いずれかの指導員講習」どちらについても、受講経験ありの場合、実習実施予定表をさらに詳細化した計画を策定している傾向が高い。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ OJT で活用している教材等：「介護の技能実習指導員講習会」「いずれかの指導員講習」どちらについても、受講経験ありの場合、各種教材等を活用している傾向が高い。特に「介護職種の技能実習生の受入に関するガイドライン」の活用率が高い。 ・ 技能実習生に活用を指示している（推奨している）教材等：「介護の技能実習指導員講習会」「いずれかの指導員講習」どちらについても、受講経験ありの場合、各種教材等を技能実習生に推奨している傾向が高い。 ・ OJT に関して工夫・重視していること：「介護の技能実習指導員講習会」「いずれかの指導員講習」どちらについても、受講経験ありの場合、全体的に工夫・重視していることが多い。
<p>OJT の順調度別・ 当初期待と実際の比較別</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ OJT で活用している教材等：OJT が「計画より前倒し」で進行している施設・事業所は、「介護職種の技能実習生の受入れに関するガイドライン」の割合が相対的に高い。 ・ OJT に関して工夫・重視していること：当初期待と実際の比較で「期待を上回る」と回答した施設・事業所は、「教える人によって教え方がばらつかないように、教える側同士で教え方のすり合わせをしている」の割合が相対的に高い。 ・ 技能実習生にまつわる OJT の課題：OJT の順調度に関して「遅行（計画より遅れている）・把握していない」と回答した施設・事業所は、技能実習生にまつわる様々な課題を抱えているが、特に「言葉の問題でコミュニケーションが円滑にとれず、介護技術の習得にマイナスの影響が出ている」の割合が高く、55.6%と過半数を超える。 ・ 技能実習指導員にまつわる OJT の課題：OJT の順調度に関して「遅行（計画より遅れている）・把握していない」と回答した施設・事業所は、技能実習指導員にまつわる様々な課題を抱えているが、特に「通常業務が忙しく、技術指導のための時間を十分確保できない」の割合が高く、71.1%と過半数を超える。 ・ 業務従事日ごとの技術習得に関する振り返りの実施状況：OJT の順調度に関して「遅行（計画より遅れている）・把握していない」と回答した施設・事業所は、「その日ごとの振り返りは実施していない」の割合が相対的に高く、25.9%。また、「指導員が記録を書くようにしている」の割合が相対的に低い（35.6%）。 ・ 介護技術・知識の定期的な評価の実施状況：OJT の順調度に関して「計画より遅れている・把握していない」と回答した施設・事業所は、介護技術・知識の定期的な評価の実施率が相対的に低い。 ・ 日本人介護職員による OJT 改善に向けた話し合い：OJT が「計画より前倒し」で進行している施設・事業所は、「日常業務の中で話し合っている」の割合が相対的に高い。 ・ 日本人介護職員に対する OJT におけるキャリア段位活用状況：OJT が「計画より前倒し」で進行している施設・事業所は、キャリア段位の活用度が高い。当初期待と実際の比較で「期待を上回る」と回答した施設・事業所にも同様の傾向がみられた。

(4) クロス集計結果より

- 技能実習生の人数別
 - ・ 技能実習生を多く受け入れている施設・事業所は、連動して日本人介護職員が多く、「指導する職員によって、同じケアであっても指導方法が異なる」といった課題が顕在化しやすい傾向が確認された。
 - ・ 一方で、技能実習生を多く受け入れている施設・事業所は「相談しやすいように、メンター職員を配置している」「個別に進捗状況について、チェックリストを用いてPDCAを確認している」「学習しやすいよう、施設・事業所内に勉強室（学習スペース）を設けている」の割合が相対的に高かった。これらの項目以外についても、全体的に工夫・重視していることが多い傾向がうかがえた。
 - ・ また、技能実習生を3名以上受け入れている施設・事業所では、主な技能実習指導員が「介護の技能実習指導員講習会」を受講している割合が高い傾向にあった。
 - ・ なお、OJTの順調度、技能習得に関する当初期待と実際の比較では、人数による差異はほぼ見られなかった。これらの結果を勘案すると、総じて技能実習生の人数にあわせたOJTが実施されていることがうかがえる。
- 技能実習指導員の人数別
 - ・ 技能実習指導員の人数が「2名以上」の施設・事業所は、「指導する職員によって、同じケアであっても指導方法が異なる」といった課題が顕在化しやすい傾向が確認された。
 - ・ 他方、OJTに関する工夫・重視点として「教える人によって教え方がばらつかないように、教える側同士で教え方のすり合わせをしている」「現場で相談できるよう、ベテラン職員等の経験年数のある介護職員とチームを組むようにしている」といった事項が意識されている傾向が高く、上述した課題に対する対策が取られている様子がうかがえる。
 - ・ 技能実習指導員の人数が「3名以上」の施設・事業所は、「施設・事業所内で独自に作成したテキスト・資料」「介護職種の技能実習生の受け入れに関するガイドライン」の割合が相対的に高かったが、この結果は、指導方法の標準化・共通化を志向する対策として解釈することができる。
- 主たる技能実習指導員の指導講習受講状況別
 - ・ 「介護の技能実習指導員講習会」または「いずれかの指導員講習」を受講している場合、下記の傾向がみられた。
 - ✓ 実習実施予定表をさらに詳細化した計画を策定している傾向が高い。
 - ✓ OJTで各種教材等を活用している傾向が高い。特に「介護職種の技能実習生の受入に関するガイドライン」の活用率が高い。
 - ✓ 技能実習生に対して各種教材等を推奨している傾向が高い。
 - ✓ 全体的に、OJTに関して工夫・重視していることが多い。
 - ・ 指導員が、指導に関する講習を受けている場合は、より詳細な計画に則り、ガイドラインや教材を用い、OJTの実施方法を明確化の上で取り組み、「教え方のすり合わせ」や、現場相談体制を組むといった、「指導方法」の工夫を行うなど、OJT実施体制の構築をはかり臨んでいることが読み取れる。またこれらの指導に資する講習参加が、体系的なOJT実施に寄与している可能性も指摘できる。

- OJT の順調度別・当初期待と実際の比較別
 - ・ OJT が「計画より前倒し」で進行している、または、技能習得が「当初期待を上回る」施設・事業所は、下記の傾向がみられた。
 - ✓ OJT で活用している教材として「介護職種の技能実習生の受入に関するガイドライン」の活用率が高い。
 - ✓ OJT に関する工夫・重視点として「教える人によって教え方がばらつかないように、教える側同士で教え方のすり合わせをしている」の割合が相対的に高い。
 - ✓ 日本人介護職員による OJT 改善に向けて、「日常業務の中で話し合っている」割合が相対的に高い。
 - ✓ 介護キャリア段位制度の活用度が高い。
 - ・ 他方、OJT が「遅行している・把握していない」、または、技能習得が「期待を下回る・その他」施設・事業所は、下記の傾向がみられた。
 - ✓ 業務に従事する日ごとの技術習得に関する振り返りについて、「その日ごとの振り返りは実施していない」の割合が相対的に高い。また、「指導員が記録を書くようにしている」の割合が相対的に低い。振り返りを実施していない、あるいは指導員が関与せず技能実習生に任せている傾向がみられた。
 - ✓ 介護技術・知識の定期的な評価の実施率が相対的に低い。
 - ✓ 「コミュニケーションが円滑に取れない」「安全・衛生の理解が難しい」、「自立支援についての理解が難しい」など、基本をなす介護技能移転にあたっては難航していると読み取れる。
 - ✓ 「指導方法」について課題としつつも、課題への対応はとれていない傾向。
 - ・ 上記より、介護技能実習制度を用いた OJT を、着実に推進していくためには、ガイドラインに基づきつつ、指導者によってばらつきがない適切な指導を展開するとともに、日々の振り返り、介護技術・知識の定期的な評価を実施していくことが、取組の順調度、結果に影響を与える可能性が示唆される。
 - ・ OJT 実施方法を明確にし、指導の仕方の標準化をはかりながら、現認評価を伴う OJT にて PDCA サイクルを展開させていくという、OJT 体制構築の上での実施が、外国人介護人材の技能移転、育成においても重要であるといえる。